三重県埋蔵文化財年報14

昭和58年度

1984.3

三重県教育委員会

例　　言

1. この年報は、昭和５８年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。

2. Ⅲの緊急調査の現状のうち、２・緊急発掘調査の概要は、それぞれの発掘調査担当者による。

3. 本書の編集は、文化課文化財係埋蔵文化財担当係において行った。

目　　次

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財 …… 1
1. 市町村総合計画（案）等の事前審査 …… 1
2. 民間企業等の開発計画の事前協議 …… 1
3. 国の機関等の開発計画の事前協議 …… 4

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化 …… 11
1. 埋蔵文化財整理所 …… 11
2. 文化財パトロール …… 12
3. 埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 15
4. 埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修 …… 16
5. 埋蔵文化財担当者の研修 …… 17
6. 文化財保護連絡会議 …… 17

Ⅲ　緊急調査の現状 …… 19
1. 大規模開発事業地域遺跡分布調査 …… 19
2. 緊急発掘調査 …… 21

Ⅳ　調査結果の公開 …… 59
1. 三重県埋蔵文化財展 …… 59
2. 三重県発掘遺跡説明会 …… 60
3. 三重県埋蔵文化財調査展 …… 61
4. 三重県埋蔵文化財発掘調査報告会 …… 62
5. 発掘遺跡現地説明会 …… 63
6. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可 …… 64

付
〔1〕 埋蔵文化財関係通知 …… 65
〔2〕 三重県文化財調査員設置要綱 …… 67
〔3〕 昭和58年度三重県文化財調査員一覧表 …… 68
〔4〕 昭和58年度三重県文化財パトロール実施要項 …… 70
〔5〕 昭和58年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項 …… 73
〔6〕 埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表 …… 74
〔7〕 三重県埋蔵文化財認定通知物件 …… 77

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財

1.　市町村総合計画（案）等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は次のとおりである。

基本構想において、(1)　文化財保護の項目の有無

(2)　埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無

(3)　遺跡の周知徹底の明記の有無

2.　民間企業等の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令要項等によって方針が定められており、事前協議を実施している。特に、建設省の「宅地開発指導要綱に関する措置方針について」（計民発　第54号 昭和58年8月24日）により、埋蔵文化財の発掘調査に係る調整期間、調査経費の上昇及び負担等についての実態把握と調整の円滑化の検討が提起され、文化庁でも各都道府県の実態調査を実施した。一方、都市計画法施行令の一部改正に伴う施行細則の一部改正（市街化調整区域内における開発許可規模の緩和について）により、開発事業の増加が予測され、埋蔵文化財の保護に著しい影響が生じるおそれもある。こうした現状から各種開発事業の計画段階において、埋蔵文化財の保護について十分協議することがさらに要請される。

なお、具体的取り扱いとしては、「文化財保護の指導要項」（『三重県開発事業指導に関する計画設計の技術基準』所収）により関係機関、事業者に協力を求めている。その際の現地分布調査は、当該市町村教育委員会が関係教育事務所の指導を受けて実施し、その調査結果写しを県教育委員会に報告することとしている。

〔開発行為事前設計協議（土木部）〕

種別	事業場所	面積（㎡）	協議年月日	備考
住宅団地造成	松阪市上川町地内	260,872	開 733 号 58. 6.27 ㊏58. 7. 9	
工場用地造成	多度町御衣野地内	223,000	開 1016号 58. 8.29 ㊏58. 9. 1	工事中発見の取扱い
住宅、 工場用地造成	北勢町地内	158,669	開 1022号 58. 8.31 ㊏58. 9. 9	〃
住宅団地造成	四日市市桜町地内	355417.45	開 1335号 58.11.10 ㊏ 11.24	
ゴルフコース 等造成	桑名市播磨西方地内	361,770	開 1289号 58.10.31 ㊏58.11.24	
ゴルフ場造成	上野市比土字三谷4212ほか	1,050,000	開 155号 59. 2. 2 ㊏59. 2.10	分布調査の実施
住宅団地造成	津市河辺町長岡町地内	516,885	開 155号 59. 2. 2 ㊏59. 2.10	(津市教委調査中)
大山田工業団地	阿山郡大山田村大字炊村	173,850	開 232号 59. 2.17 ㊏59. 2.25	分布調査の実施

〔開発行為に伴う設計協議（土木部）〕

種別	事業場所	面積（㎡）	協議年月日	備考
運動広場及び 緑地広場	四日市市市場町937−1	10,815	開 416号 58. 4.28 ㊏58. 5.17	埋文の取り扱い工事立会いについて市教委と協議
総合営農施設	桑名市大字播磨字欠の前ほか	10,824	開 648号 58. 6. 9 ㊏58.6.20 開発734	工事途中の埋文発見の取り扱い
ゴルフ練習場	四日市々平津町481−1	18,528	開 895号 58. 8. 1 ㊏58. 8. 8	工事中発見の取扱い
農村環境改善センター及び 体育館造成	玉城町大字下田辺字土山800	35,948	開 986号 58. 8.18 ㊏58. 8.18	〃
工場用地造成	多度町御衣野	223,937.16	開 1126号 58. 9.16 58. 9.20	〃

種　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　考
工場用地造成	久居市新家町字久保３９０－２	３３６,２６２	開　１１５７号 ５８．９．２６ ㊏５８．１０．３	
一般住宅・ドライブイン・商店街・仏師村・造成事業	上野市守田町字南平尾1120他	１６８,５６９	開　１３５０号 ５８．１１．１７ ㊏５８．１１．２４	
山田工業 藤原工場	員弁郡藤原町大字山口地内	１,２７２	開　１３５１号 ５８．１１．１７ ㊏５８．１１．２４	工事中発見の取扱い
三重白山 ゴルフクラブ	一志郡白山町大字川口地内	１０００,０００	開　１３８３号 ５８．１１．２５ ㊏５８．１２．１９	５９．１．２５町教委より現地立会し、古墳を残すことで了解さる
住宅団地 高田山ハイツ造成	松阪市上川町地内	２６２,９８８.２１	開　１３８５号 ５８．１１．２５ ㊏５８．１２．３	工事中発見の取扱い
工場用地造成	亀山市能褒野町大野2667の1 田村町東山１７７８の1他 大森町大野１９９５の1他	４８,０３１	開　２４号 ５９．１．５ ㊏５９．１．１０	埋文の取扱い
ゴルフ場	員弁郡藤原町大字吉田 上之山田、篠盆地内	３,２００	開　３８号 ５９．１．６ ㊏５９．１．１７	
住宅団地	伊勢市藤里町字長尾谷他	１９１,５３０.３２	開　２０２号 ５９．２．７ ㊏５９．２．１４	分布調査の実施
住宅団地	安濃町大字妙法寺西村 丸岡地内	７１,０２３.３	開　１７５号 ５９．２．１ ㊏５９．２．１８	埋文の取扱い
工場用地造成	員弁郡大安町大字石榑東字大野地内	１２,０１１.６１	開　２８６号 ５９．３．５ ㊏５９．３．９	分布調査の実施
住宅団地	鳥羽市小浜町地内	２０,１９５	開　３００号 ５９．３．６ ㊏５９．３．１５	〃
工場用地造成	多度町御衣野地内	２６３,４４６.６７	開　３７８号 ５９．３．２３ ㊏５９．３．３１	工事中発見の取扱い

〔建築許可に関する幹事会（土木部）〕

種　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　考
旅　館	鈴鹿市東磯山4−1781−1他	2757.49	建課897号 58. 5. 9 58.5.18 会議	
ビジネスホテル	久居市中村町字国主谷791−2	998.40	建幹1967号 58. 9.26	58.10.4幹事会
〃	明和町大字有爾中字堀田 1155−50			周知埋文あり 分布調査の実施

〔三重県土地利用対策委員会幹事会（企画調整部）〕

種　別	事　業　場　所	面　積（㎡）	協議年月日	備　考
工場用地	員弁郡藤原町大字山口	60,489	土地利102号 58. 7.14 ㊎58. 7.19 ㊍58. 7.22	分布調査の実施
別荘分譲地造成	志摩郡大王町大字船越	96,670	土地利102号 58. 7.14 ㊍58. 7.22	〃
住宅団地造成	度会郡二見町大字山田原	280,170	土地利109号 58.10.15 ㊍58.10.26	・分布調査の実施 ・町教委と覚書の締結

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

文化課では、前年度中または年度当初に開発関係行政機関に対し、事業計画の照会をするとともに、事業地内の埋蔵文化財の有無を照会している。埋蔵文化財が事業地内に存在する場合は、その取り扱いについて当課と協議するよう申し入れをしている。

今年度は、県機関19件、市町村機関29件であった。

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には県営圃場整備事業、県営一般農道整備事業があり、その他、市町村が事業主体となる団体営のものもその中に含まれている。圃場整備事業は近年平野部から山間部へと事業がすすみ、必然的に遺跡にかかる頻度

が高く、また段差の大きい田畑のため、工事設計上、遺跡保護がむつかしくなっている。

今年度の県営圃場整備事業を例にとると、事業総面積６２２haの中で、分布調査の結果、６４遺跡、面積にして６５１,９５０㎡もの遺跡が所在することが確認された。

この結果に基づき再三にわたり耕地第二課、各耕地事務所と協議を行いできるだけ遺跡保護に努めた結果、計１０件、２６,０００㎡の遺跡については、削平部分、排水路部分に限り、やむをえず発掘調査を実施した。

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営ほ場整備事業	桑名耕地事務所	大安東部					
		大安西部					
		員弁	41	高林遺跡	員弁郡員弁町大泉字高林	3,400	試掘
				三本松遺跡	〃 字三本松	1,800	試掘
		北勢					
	四日市耕地事務所	八風	30	六谷遺跡	三重郡菰野町小島字下六谷	30,000	試掘・本調査
		安塚	29	起西遺跡	鈴鹿市安塚町	5,000	試掘
		鈴鹿第二	65	北長太遺跡	〃 北長太町	1,800	現状保存
		深溝					
		合川下ノ庄					
	津耕地事務所	安濃川右岸	26	北神山A遺跡	安芸郡芸濃町北神山	2,000	盛土保存
				B	〃	1,800	試掘
				C	〃	1,600	〃
				D		800	〃
				E		1,400	〃
		津南部	20	宮ノ前遺跡	津市雲出長常町字宮ノ前	21,000	〃
				寺地遺跡	〃 字寺地	5,100	〃
				段々遺跡	〃 字段々	60,000	〃
				高峯遺跡	〃 字高峯	1,200	〃
		美里中南部	15	外山A遺跡	安芸郡美里村五百野字外山	2,000	} 地区除外
				外山B遺跡	〃	3,000	

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営ほ場整備事業	津耕地事務所			八反垣内遺跡	安芸郡美里村五百野字外山	1,200	試掘
		白山西部	12	北出A遺跡	一志郡白山町山田野字北出	3,000	〃
				北出B遺跡	〃	1,500	〃
		豊地	9	薬王寺遺跡(二反田遺跡)	一志郡嬉野町薬王寺字二反田	300	
		三雲東部					
		河芸南部					
	松阪耕地事務所	斎宮	30	西池村遺跡	多気郡明和町西池村	20,000	試掘
		堀坂川沿岸	23	曲A遺跡	松阪市曲町	1,200	
				〃 B 〃	〃	2,200	
				〃 C 〃	〃	2,000	
				〃 D 〃	〃	2,000	
				〃 E 〃	〃	2,500	
				〃 F 〃	〃	4,000	
		東黒部	25	大垣内A遺跡	松阪市大垣内町	4,000	
				〃 B 〃	〃	7,500	
				〃 C 〃	〃	2,000	試掘
				〃 D 〃	〃	2,000	
				〃 E 〃	〃	2,500	
				〃 F 〃	〃	4,000	地区除外
		上御糸					
	伊勢耕地事務所	伊勢南部	28	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町	20,000	試掘・本調査
				乙部遺跡	〃 円座町	10,000	〃
	上野耕地事務所	上野南部	4	丸山A遺跡	上野市比自岐	1,200	試掘
				B	〃	1,600	〃
				C(狭間遺跡)	〃	300	試掘・本調査300㎡
		大山田第二	21	富永A遺跡	阿山郡大山田村富永	25,000	盛土保存
				B(風呂谷遺跡)	〃	6,000	試掘
				C	〃	6,600	〃
				D(高顔遺跡)	〃	3,300	試掘・本調査
				E(北切遺跡)	〃	29,700	〃

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営ホ場整備事業	上野耕地事務所	赤目	8	富永F遺跡	阿山郡大山田村富永	9,400	盛土保存
				壇遺跡(壇柏原遺跡)	名張市赤目町柏原	100,000	盛土保存・本調査
		河合	7	河合A遺跡	阿山郡阿山町河合	1,500	
				〃 B 〃	〃	2,000	次年度以降
				〃 C 〃	〃	800	
				〃 D 〃	〃	5,200	試掘
				〃 E 〃	〃	2,200	〃
				円徳院遺跡	〃 円徳院	270,000	次年度以降
		上野東部	31	中友生A遺跡	上野市中友生	84,000	試掘
				〃 B 〃(岸ノ上遺跡)	〃	23,400	試掘・本調査
				〃 C 〃	〃	6,400	
				中友生D遺跡	〃	30,000	
				E	〃	3,600	
				F	〃	2,400	
				G	〃	1,500	
				H	〃	2,100	
				I	〃	2,000	
				J(淵遺跡)	〃	17,300	
				K	〃	11,000	
				L	〃	10,400	
				M(大門遺跡)	〃	24,000	
	熊野耕地事務所	相野谷					
		計	622	64		651,950	
県営畜産経営指導整備事業	四日市耕地事務所	大安		北山遺跡	三重郡菰野町小山	20,000	試掘
県営農村基盤総合整備パイロット事業	松阪耕地事務所	阿坂		辰の鼻遺跡	松阪市岩内町	2,500	試掘
				下の田遺跡	〃	800	〃
				薮の下遺跡	〃	2,000	試掘・本調査
県営広域営農道整備事業	津耕地事務所	中勢	路体工 ℓ=820M	岩城遺跡	安濃郡安濃町岩城	1,000	試掘

事業名	耕地事務所	地区	事業面積(ha)	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営揮発油税財源身替農道整備事業	上野耕地事務所	大山田南部 大山田南部二期	路体工 ℓ=1529M 路体工 ℓ=217M	永井氏城跡 出後古墳	阿山郡大山田村出後 〃	500 400	試掘 〃

(2) 道路改良、河川改修

道路改良、河川改修はその性格上、埋蔵文化財の保存を図ることが難しいが分布調査、試掘調査の結果に基づき最少限の範囲について事前に発掘調査を実施している。しかし路線決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほとんどが協議中となっている。

本年度県教育委員会が実施した発掘調査は道路関係5件、河川関係2件である。

事業名	遺跡名	所在地	措置	
国道306号改良	丹生川上城跡	員弁郡大安町丹生川	本調査	2,500㎡
県道安乗港線改良	天神遺跡	志摩郡阿児町国府	〃	1,500㎡
県道甲賀鹿谷線改良	浜田浜遺跡	〃 甲賀	試掘	40㎡
国道311号改良	ハサマ遺跡	熊野市有馬町山崎	〃	48㎡
県道伊賀青山線改良	坂下遺跡	阿山郡大山田村坂下	〃	48㎡
木津川改修	下郡遺跡	上野市下郡	本調査	1,550㎡
御代川改修	宮浦中・近世墓	上野市比自岐	〃	200㎡

土木部関係協議中遺跡（昭和58年度）

〔道路建設課〕

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積㎡ 概要	備考
国道365号	大安町片樋	大久保城跡（102）	中世城館	土塁残存
県道四日市土山線	四日市市高角町	（新発見）		

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備．考
国道 ３６５号	四日市々小牧町	門ノ上古墳群(6～11)		円墳	年報記載
〃	〃 〃	真造寺遺跡 (25)		弥生時代包蔵地	〃
〃	〃 上海老町	高岡山古墳 (242)		円墳	〃
県道 上海老南角線	四日市々赤水・上海老町	タブノキ・ヒサカキ クロガネモチ			
国道 ３０６号	〃 水沢茶屋町	コナラ・クヌギ			
県道 川島・貝塚線	〃 川島町	コナラ・タブノキ			
国道 ３０６号	亀山市井戸町	コミザ小下遺跡 (111)		縄文時代以降包蔵地	
〃	〃 樺野上野	東樺野古墳(81～82)		円墳（包蔵地）	
県道 徳居国府線	鈴鹿市長法寺町	段郷田遺跡(新発見)	1,650	中世包蔵地	
国道 ３０６号	河芸町三行	稲降遺跡 (〃)		中世包蔵地	未買収
〃	〃	ジュウジ住持城跡 (〃)	1,500	中世城館跡	法面部は県が借地
県道 豊里久居線	津市上浜町	小舟古墳 (287)		円墳	未買収
〃	津市一身田	峯治城跡 (470)		中世城館	〃
〃	〃	城山遺跡 (15)		弥生時代包蔵地	〃
県道 家所阿漕(T)線	美里村家所	家所城北遺跡（新発見）		中世包蔵地	〃
県道 丹生寺一志線	一志町片野	片野遺跡	4,430	古代包蔵地	
〃	嬉野町堀田	堀田遺跡		〃	
〃	松阪市伊勢寺町	五輪山古墳群 (34～42)			
〃	〃	鍛冶屋垣内遺跡	(3,000)	円墳	
〃	松阪市丹生寺町園	園遺跡 (515)	1,350	古代包蔵地	
県道 合ケ野松阪線	松阪市伊勢寺町	伊勢寺遺跡 (274)		〃	
〃		2 地点			
〃		3 地点			
〃		4 地点			
〃		5 地点			
〃	松阪市曲町	6 地点			

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備考
県道　合ヶ野松阪線	松阪市川井町	川井町遺跡　（275）			
県道　仁田相可口線	多気郡四神田	ミゾコ遺跡	2,700 （含農道）		
県道　田丸斉明線	玉城町坂本	砂谷遺跡（新発見）	（4,000）	古代包蔵地	未買収
国道　２６０号	南勢町田曽浦	田曽城跡　（79）		中世城館跡	設計変更有
県道　安乗港線	阿児町国府	国府城跡　（109）	（　700）	〃	未買収
〃	〃	御茶子遺跡（新発見）	（1,000）	古代包蔵地	〃
県道　甲南上野線	阿山町円徳院	桶先氏城跡（　〃　）	3,750	中世城館跡	用買済
〃	〃　槙山	遊免（ゆうめん）遺跡（　〃　）	（2,600）	中世包蔵地	未買収
国道　３６８号	上野市山出	四国山城跡（　〃　）	（3,200）	中世城館跡	〃
〃	名張市蔵持町	四ノ切城跡（　〃　）		〃	〃
〃	〃	蔵持黒田古窯跡（249）	（　600）	１基か	用買済
県道　赤目滝線	〃　長室	沢ノ代遺跡　（271）	3,700		〃

〔河　川　課〕

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備考
天神川	津市高茶屋	已ノ谷遺跡（新発見）	（　400）	中世包蔵地	未買収
碧川	三雲村南曽原	南曽原遺跡（　37　）	（1,200）	弥生中世包蔵地	〃
矢田川	上野市森寺	竹ノ下遺跡（新発見）	3,000	弥生古　包蔵地	用買済
木津川	〃　下郡	下郡遺跡　（164）		中世包蔵地	S53以来継続

〔砂　防　課〕

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備考
新沢川	多度町柚井	宇賀神社古墳群		3　基	事業地に隣接設計変更なら連絡

〔都市計画課〕

路線名	所在地	文化財の名称（No.）	面積 ㎡	概要	備考
環状１号	四日市市室山	ウメ・アラカシ・クロバイ・クスノキ・カクレミノ			

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化

1.　埋蔵文化財整理所

津市及び上野市内に埋蔵文化財整理所があり、出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管、整理作業及び報告書作成などにあたっている。上野整理所は伊賀地区における国・県等が実施する土木工事に伴う発掘調査を実施するとともに、市町村教育委員会が実施する発掘調査の指導にあたっている。

埋蔵文化財上野整理所

所在地　　上野市丸之内１１７

(電)　０５９５－２４－００７９

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
4	県道改良事業予定地遺跡分布調査（大山田村） 県ホ　名張市赤目地区試掘 農免道路　大山田村地区試掘 県ホ　大山田村第二地区試掘	
5	県ホ　上野市東部地区大門遺跡ほか調査（６月まで） 県ホ　名張市赤目地区壇遺跡調査（９月まで）	
6	県ホ　阿山町河合地区、大山田第二地区範囲確認と協議 県道　甲南上野線河合地区確認と協議 県道　甲南上野線河合地区試掘 農免道路　大山田村地区永井氏城調査（７月まで）	
7	県ホ　大山田村第二地区（富永、下阿波）試掘 県ホ　大山田村第二地区風呂谷遺跡調査（１１月まで） 国道　３６８号線上野市地区、名張市地区遺跡範囲確認 県ホ　上野市南部地区狭間遺跡調査	
8		第２回三重県埋蔵文化財発掘調査報告会（上野市）
9		大山田村農村総合整備モデル事業地に係る協議
10	県河川改修　上野市下郡遺跡調査（１月まで） 県営林道　大山田村鳳凰寺地区試掘	

月	国・県ほか関係事業	市町村指導
11	県ホ　大山田村第二地区北切遺跡調査（12月まで） 県道　伊賀青山線大山田村坂下地区試掘 県ホ　上野市東部地区試掘 県ホ　上野市東部地区試掘	阿山町波敷野9号墳協議 大山田村北切遺跡工場誘致に係る連絡
12	県ホ　上野市東部地区試掘	伊賀町浜地氏城跡治山事業に係る協議
1	県河川改修　上野市宮浦中近世墓調査 県河川改修　上野市竹ノ下遺跡試掘	
2	県ホ　阿山町川合地区試掘	
3	農免道路　大山田村地区範囲確認と協議	

2. 文化財パトロール

昭和58年度の文化財パトロールは、小中高の教員及び民間有識者50名を三重県文化財調査員として依頼し実施した。

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数934件のうち埋蔵文化財関係が81％を占め、処理件数7件のうち5件が埋蔵文化財関係である。これらの傾向としては公共事業にかかるものが目立ち、開発計画段階での開発部局へのかかわり方等が課題として残された。また、今年度は県営圃場整備事業予定地、県・国道改良等予定地の分布調査を依頼したが、細部での齟齬がありやや円滑化を欠いたので、来年度は詳しい説明・連絡をとる必要がある。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は29件あった。これらについては周知の遺跡の追加・訂正も含まれており、遺跡カード、遺跡地図への追加記入、整備を早急に実施し、文化財保護の基礎資料とする。今年度の指定文化財に対するパトロール件数は177件で全体の19％を占め、昨年度に比べ増加しているが、市町村指定あるいは未指定文化財の報告や、市町村事業、民間事業にかかる分布調査報告が含まれるなど、若干混乱がみられるため、今後県、市町村調査員間の緊密な連絡体制を作る必要がある。

(3) 文化財保護思想の普及

阿山町波敷野古墳群の天井石盗掘にみられるように、文化財保護思想については、地域の人々、関係機関を通じてさらに普及、啓蒙を図っていかなければならない。

（昭和５８年度文化財パトロール実施状況）

月別	重要文化財等		史跡名勝				天然記念物		埋蔵文化財		処理内容		
	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	巡視	処理	教育事務所	文化財名	内容
4													
5			1				3	1	15		熊野	徳司神社社叢（会社事務所上へ枝がのびた）	枝の伐採
6	7		3				3		49				
7	11		5				5		65		上野	城館跡古墳（墓地拡張）	市教委連絡（拡張は未定）
8	13		5				23		97	1	上野	城館跡（国道拡幅）	土木部連絡
9	21		3		1		6		81				
10			1				4	1	32	1	中勢 尾鷲	中大谷古墳群（町道拡幅） 豊浦神社社叢（台風による倒木）	町教委連絡 現地立合 伐採
11	10		2				3		83	1	上野	波敷野古墳群（天井石盗掘）	町教委連絡
12	4		1				5		61	1	中勢	丸岡古墳群（町簡易水道）	町教委連絡 現地立合
1	10		1				4		91				
2							10		103				
3	6		6						80				
計	82		28		1		66	1	757	5		パトロール総件数　９３４件 処理件数　７件	

※ 新発見遺跡数　２９カ所

（四日市市文化財パトロール調査員）

調査員	所属	住所
加田勝敏		
葛山博次	朝明高校	
桐生定已	常磐中学校	
片岡雅章	桑名高等学校	
森下明	大矢知興譲小学校	
樋尾重雄		
早川裕己	大谷台小学校	
加藤淳次	大池中学校	

地区	分担地区	対象	調査員
A地区	保々、下野、八郷、大矢知、富洲原、富田		片岡・森下
B地区	県、三重、神前、羽津、海蔵、橋北、旧市		早川
C地区	桜、川島、神前、常磐、日永	一般文化財	加藤
D地区	水沢、小山田、内部、河原田、四郷、塩浜		樋尾・加藤
A～D地区	全地域	天然記念物	加田・葛山・桐生

（註　「四日市市文化財パトロール要項」は、『三重県埋蔵文化財年報7』昭和51年度版 1977.3を参照）

（津市埋蔵文化財パトロール調査員）

調査員	所属	住所
河合良成	南郊中学校	
西口嘉雄		
浅生悦生	西郊中学校	
和田勉	橋南中学校	
高木洋幸	新町小学校	
松浦栄	白塚小学校	
三重大学歴史研究会原始古代史部会		
津高地歴クラブ　（顧問　福江克明）		
津西高地歴クラブ　（〃　栗本俊雄）		
〃　郷土史クラブ（〃　徳井賢）		
高田高郷土史クラブ（〃　長谷川博）		

3. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和４２年度以来、学校職員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施してきた。しかし夏期の短期間の研修では不十分であるため、昭和５４年度からは研修事業を強化拡大し、県外３カ月、県内９カ月の１カ年研修を実施している。

昭和５８年度研修生

中　山　　暁　（崇広中学校教諭）

井　藤　正　文　（一志中学校教諭）

中　西　正　典　（下外城田小学校教諭）

（昭和５８年度研修内容）

月	県内研修		県外研修
4	○文化財保護行政について ○遺物整理実習	○遺跡見学	
5		○分布調査実習 ○発掘調査実習（斎宮跡、中ノ垣外遺跡）	
6		○発掘調査実習（斎宮跡、壇柏原遺跡、大門遺跡、永井氏城跡）	
7		○発掘調査実習（壇柏原遺跡、永井氏城跡）	○平城宮跡発掘調査部 ○埋文センター
8		○発掘調査実習（永井氏城跡）	○埋文センター ○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
9		○発掘調査実習（中ノ垣外遺跡、斎宮跡）	○平城宮跡発掘調査部 ○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
10		○発掘調査実習（中ノ垣外遺跡、斎宮跡）	○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
11		○発掘調査実習（中ノ垣外遺跡、丹生川上城跡）	
12		○発掘調査実習（北切遺跡、丹生川上城跡、久米山古墳群、中ノ垣外遺跡、明豆遺跡）	
1		○発掘調査実習（宮浦中世墓、中野山古墳群、久米山古墳群、中ノ垣外遺跡）	
2	○報告書作成実習	○発掘調査実習（中ノ垣外遺跡、久米山古墳群）	
3	○報告書作成実習 ○室内講義		

（室内講義内容）

月　日	内　　容	担　　当	場　　所
3.16	・文化財行政	主査　伊藤　久嗣	津埋蔵文化財整理所
	・三重県の弥生土器	〃	〃
	・三重県の旧石器・縄文土器	主事　高見　宣雄	〃
3.17	・三重県の古代・中世の土器	技師　新田　洋	〃
3.22	・三重県の古墳時代の土器	技師　吉水　康夫	〃
3.23	・三重県の古代寺院と瓦	技師　山田　猛	〃
3.26	・三重県の中世城館	主事　駒田　利治	〃
3.27	・斎宮の建築遺構	主事　倉田　直純	斎宮跡調査事務所
	・斎宮の奈良平安時代の土器	主査　谷本　鋭次	〃

4. 埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修

各種開発事業に伴う緊急発掘調査件数が増大し、埋蔵文化財専門担当職員未設置の各町村においても調査体制の確立が急務となっている。そのため、本年度から埋蔵文化財関係の専門的技術の習得と行政の強化を目的として研修を実施した。

昭和５８年度研修生

西　峰　博　之　（芸濃町教育委員会）

月	研　修　内　容	研修場所
6	○文化財行政について ○発掘調査について	津埋蔵文化財整理所
	○機材搬入、写真撮影ほか	野呂氏館跡
	○発掘実習（試掘坑設定・遺構検出・調査カード記入）	〃
7	○発掘実習（遺構検出、実測準備遺構実測）	〃
	○発掘実習（遺構実測ほか）	〃
8	○出土品整理	津埋蔵文化財整理所

5. 埋蔵文化財担当者の研修

県及び市町村教育委員会の埋蔵文化担当者に対する研修会を、隔月に開催地を順次交替して開催している。

この研修会は県教委文化課（１４名）、斎宮跡調査事務所（４名）、市、町（１３名）、研修生（３名）の全員参加を原則としており、埋蔵文化財における行政上の諸問題、調査方法、調査結果等について情報交換及び討議を行った。また重要遺跡の見学とともに、文化財関係ほかの講演を聴講した。

開催日	開催地	参加数	講演・見学など
58. 4.18	津市合同ビル	43	○発掘調査にかかる安全作業基準について 三重労働基準局　鈴木　春彦
58. 6.16	伊勢市青少年会館	32	○記録映画「伊勢・河崎」 ○中ノ垣外遺跡
58. 8.20	上野市商工会議所	28	○久米山古墳群
58.10. 4	明和町中央公民館	32	○斎宮跡
58.12. 9	四日市市市民会館	45	○菰野町郷土資料館、同杉谷収蔵庫、六谷遺跡、大安町丹生川上城跡
58. 3. 9	久居市中央公民館	40	○津市川北城跡、嬉野町辻垣内瓦窯跡、一志町中野山古墳群

6. 文化財保護連絡会議

(1) 趣　旨

本県内において行われる住宅造成、農業基盤整備、道路建設等の開発事業にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、昭和４８年７月１０日付教文第353号で三重県教育委員会教育長が各市町村教育委員会教育長に通知したところであるが、連絡を強化し、事前協議等における文化財の確認、事務を円滑に行ない、文化財保護を確立する。

(2) 開催日

教育事務所	開催日時		場所
北勢	6月22日（水）	9：30～11：30 県関係	四日市庁舎５Ｆ第１１会議室
中勢	6月15日（水）		津庁舎４Ｆ第６会議室
松阪	6月17日（金）	1：30～3：30 市町村関係	松阪庁舎４Ｆ第３会議室
南勢・志摩	6月20日（月）		伊勢庁舎２Ｆ第２会議室
上野	6月29日（水）		上野庁舎３Ｆ小会議室
尾鷲	6月28日（火）午前9：30～	県・市町村合同	尾鷲庁舎２Ｆ第１会議室
熊野	6月27日（月）午後1：30～		熊野庁舎５Ｆ第９会議室

(3) 協議内容

① 開発にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて

○各種開発事業と埋蔵文化財の保護について

○各種開発事業計画と埋蔵文化財について

・県、市町村の開発事業計画を中心として

② 各市町村における文化財の現状と保護について

(4) 出 席 者

教育事務所	県民局	農業事務所	耕地事務所	林業事務所	土木事務所	各市町村教育委員会
北勢		北勢	桑名 四日市	四日市	桑名 四日市 鈴鹿	桑名(教)・員弁(教)・大安(教、事業課)・東員(教)・藤原(教)・四日市(教)・菰野(教)・鈴鹿(教)・関(教)
中勢		津	津	中勢	津 久居	三雲(教)・嬉野(教、企画課)・白山(教)・久居(教)・美里(教)・芸濃(教)・津(教)
松阪	中勢南部	松阪	松阪	松阪	松阪	宮川(教)・勢和(教、企画課)・飯南(教)・大台(教)・明和(教、企画開発課)、松阪(教)・多気(教、企画開発課)
南勢・志摩	伊勢	伊勢	伊勢		伊勢 志摩	伊勢(教、都市計画課)・玉城(教)・南勢(教)・度会(教)・鳥羽(教、土木課)・志摩(教)・阿児(教、建設課)・磯部(教、企画調整課)
上野	伊賀		上野	上野	上野	上野(教)、名張(教、都市計画課)・阿山(教)・大山田(振興課)・島ケ原(教)・青山(教)
尾鷲	紀北		尾鷲			尾鷲
熊野					熊野	熊野(教)・紀宝(教、建設課)・鵜殿(教)・御浜(教)

Ⅲ　緊急調査の現状

1. 大規模開発事業地域遺跡分布調査

(1) 調査目的

近年の市街地再開発に伴い、近世の代表的な政治遺跡である城郭、代官所、奉行所の規模、構造等を示す遺構が急速に失われつつある。今後の開発に備えこれら政治遺跡の現状、絵図、古図、聴きとりなどにより復元し、都市計画図に表示する。

(2) 調査組織

1) 調査主体　　三重県教育委員会

2) 調 査 員　　県内地方史研究者ほか

3) 調査協力　　各教育事務所、市町村教育委員会

近世城郭遺跡ほか遺跡詳細分布調査指導員および調査員一覧

〈調査指導員〉　樋　田　清　砂（三重県文化財保護審議会委員）

〈調　査　員〉

氏　名	調査対象遺跡	所　属	連　絡　先	電話番号
伊藤　重信	長島城	長島町文化財保護審議会委員		
西羽　晃	桑名城	桑名市文化財審議会委員		
佐々木　一	菰野城	菰野町郷土資料館		
榎本　和真	四日市代官所 大矢知代官所	菰野高校		
仲見　秀雄	神戸城 白子代官所	三重県文化財保護審議会委員		
安川　富春	亀山城	中部中学校		
樋田　清砂	津城	三重県文化財保護審議会委員		
岡田　文雄	久居城	香海中学校		
門　暉代司	松阪城	松阪市史編纂室		
金子　延夫	田丸城	玉城町文化財調査委員		

氏　名	調査対象遺跡	所　属	連　絡　先	電話番号
岩田　貞雄	鳥　羽　城	神宮徴古館		
谷口　永三	山田奉行所	伊勢市教育委員会		
福井　健二	上　野　城 名　張　城	上野本町通郵便局		
前　千雄	木本代官所	熊野市歴史民俗資料館		

（昭和５８年度近世城郭遺跡ほか遺跡詳細分布調査実施要項）

1. 調査の目的

本調査は、昭和４９～５０年度に実施した開発集中地域中世城館跡分布調査および昭和５２～５７年度に実施した大規模開発事業地域遺跡分布調査を継承し、昭和５８年度から3カ年計画で近世政治遺跡ほかを調査対象としてその保善策に資するものである。

2. 調査組織

(1) 調査主体　　三重県教育委員会

(2) 調査指導調査員　　県内地方史研究者ほか

(3) 調査協力　　各教育事務所・市町村教育委員会

3. 調査実施期間

昭和５８年５月～昭和５９年３月

4. 調査の内容

区　分	調　査　対　象
近世城郭	桑名・長島・菰野・神戸・亀山・津・久居・松阪・田丸・鳥羽・上野・名張
代官所ほか	四日市・白子・木本等（代官所）山田奉行所
砲　台	県内各地砲台跡

5. 調査結果

(1) 近世政治遺跡の所在地と範囲を記入した地図

(2) 報告書の作成

6. 調査費用　　三重県教育委員会が負担する。

2. 緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは２０件、市町村教育委員会が主体のもの３１件、遺跡調査会が主体のもの４件で総５５件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多く、近年の開発事業が次第に山間部に移向していくにつれて、縄文時代の遺跡・遺物の検出が増加する傾向が認められる。なお、調査体制、出土品の収蔵・保管などについては多くの問題を抱えており、抜本的な改善策を検討する。

（※国・県費補助事業）

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
宇野城跡	員弁郡員弁町大字宇野	警察庁舎建設	町教委	事業者
丹生川上城跡	〃 大安町丹生川	国道306号線改良	県教委	県（土木部）
山田遺跡	〃 東員町大字山田	体育館建設	町教委	町
道進遺跡	〃 〃 長深	農村総合整備	町教委	〃
白瀬城跡	〃 藤原町大字本郷	中部電力鉄塔	町教委	事業者
八幡山遺跡	四日市市小古曽町字五百山	遺跡範囲確認	市教委	市 ※
六谷遺跡	三重郡菰野町大字小島	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
孤塚遺跡	〃 大字大強原	工業団地造成	町教委	事業者
正法寺山荘跡	鈴鹿郡関町鷲山字加まへ	史跡整備	町教委	町 ※
長遺跡	津市長岡町字小山田	団地造成	市教委	事業者
高田本山如来堂	〃 一身田町	如来堂修理	専修寺	〃
川北城跡	〃 大里川北町	団地造成	市教委	〃
上野城跡	安芸郡河芸町大字上野	資料館建設	町教委	町
野呂氏館跡	〃 芸濃町	町道・個人住宅	町教委	町 ※
新屋南方遺跡	久居市新屋町	工場建設	市教委	事業者
中野山古墳群	一志郡一志町八太中野山	土取り	町教委	〃
上出城跡	〃 〃 波瀬	貯水タンク建設	町教委	町
真見遺跡	〃 白山町大字真見	団体営ホ場整備	町教委	〃
草山遺跡	松阪市久保町字草山	団地造成	市教委	事業者
曲遺跡	〃 曲り町字絵図河原	学校建設	市教委	市
岩穴古墳	〃 西野町字岩穴	防災工事	市教委	市

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
薮の下遺跡	松阪市岩内町大字薮ノ下	県営総合基盤整備	県教委	県（農林水産部）
斎宮跡	多気郡明和町斎宮	重要遺跡確認	県教委	県（教委） ※
〃	〃 〃 斎宮	史跡現状変更	町教委	町 ※
藤原遺跡	〃 〃 大字有爾中	パチンコ店建設	町教委	事業者
大道遺跡	〃 〃 大字池村	土取り	町教委	〃
茶屋前遺跡	伊勢市西豊浜町野依	学校講堂施設改良	市教委	市
中ノ垣外遺跡	〃 佐八町字中ノ垣外	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
中郷遺跡	〃 上地町	団地造成	市教委	事業者
明豆遺跡	度会郡玉城町宮古	団体営ホ場整備	町教委	町 ※
離宮院跡	〃 小俣町	史跡現状変更	町教委	町
天神遺跡	志摩郡阿児町国府	県道安乗港線改良	県教委	県（土木部）
浜田浜遺跡	〃 〃 甲賀	県道甲賀鹿谷線改良	県教委	〃
下郡遺跡	上野市下郡	木津川改修	県教委	〃
森寺遺跡	〃 森寺字前出	団体営ほ場整備	市教委	市
久米山古墳群	〃 守田町字南平尾	団地造成	市遺跡調査会	事業者
和田遺跡	〃 喰代字青木	広域市町村道	市教委	〃
淵遺跡	〃 下友生字淵	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
中島遺跡	〃 西明寺	ホテル建設	市教委	事業者
岸之上遺跡	〃 中友生字岸之上	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
大峯1号墳	〃 上郡字大峯	団地造成	市教委	事業者
大門遺跡	〃 下友生字大門	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
狭間遺跡	〃 栃川	県営ホ場整備	県教委	〃 ※
宮浦中・近世墓	〃 比自岐字宮浦	御代川改修	県教委	県（土木部）
御所垣内遺跡	名張市安部田字御所垣内	団体営ホ場整備	市遺跡調査会	市 ※
鴻之巣遺跡	〃 夏見	土地区画整理	〃	事業者
壇柏原遺跡	〃 赤目町柏原	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
赤坂遺跡	〃 夏見字赤坂	耕地整理	市教委	市 ※
坂下遺跡	阿山郡大山田村坂下	県道改良	県教委	県（土木部）
風呂谷城跡	〃 〃 富永	県営ホ場整備	県教委	県（農林水産部）※
永井氏城跡	〃 〃 出後	県営農免道路	県教委	〃
北切A遺跡	〃 〃 富永	県営ホ場整備	県教委	〃 ※
高顔遺跡	〃 〃 阿波	県営ホ場整備	県教委	〃 ※
ハサマ遺跡	熊野市有馬町山崎	国道311号線改良	県教委	県（土木部）
津ノ森遺跡	〃 〃 津ノ森	遺跡範囲確認	市教委	市 ※

緊急発掘調査の概要（※印は国庫・県費補助事業、△印は試掘）

（調査主体のカッコ内は調査主任者名）

宇野城跡（員弁町大字宇野）

事 業 名　警察庁舎建設

調査主体　員弁町教育委員会（長島中部小学校　野田修久）

調査期間　昭和５８年７月１８日～８月１４日

調査面積　６５０㎡

概　　要　工事途中に土塁が削平されたため緊急調査したもので、標高約70mの低台地上の畑地に位置する。調査の結果、掘立柱建物１棟、土壙、井戸１基を検出した。掘立柱建物は、桁行６間、梁行４間の総柱と思われるが、土壙で切られた箇所が多い。井戸は、直径1.4m、深さ8.8mの素掘り形式である。

遺物は少量で、土師器（皿、杯）、擂鉢、寛永通宝２枚がある。

『勢陽五鈴遺響』によると、本城は後藤右馬允実重の居城で、永禄１１年（１５６８）に織田信長によって侵攻されている。調査地区は、本城の東北隅部に当り、主郭などは、南側一帯の畑地、雑木林に遺存している。

丹生川上城跡（員弁郡大安町丹生川上北字正法寺）

事 業 名　一般国道３０６号道路改良事業

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛・杉谷政樹）

調査期間　５８年９月８日～５９年１月９日

調査面積　2,５００㎡

概　　要　員弁川の支流、青川と宇賀川にはさまれた台地に鈴鹿山脈より東派する丘陵の先端に位置する。この丘陵は、地元で正法寺山と呼ばれ、城はこの丘陵の頂部に詰城、東麓に居館群の広がる大規模なものである。近世の資料によれば、城主は服部将監、あるいは日能大膳とあり、また、この丘陵に正法寺という寺院があったという。道路は、居館群の西端を南北に通るため、本年度は北側より幅２０～３０mで、全体の$\frac{2}{5}$の部分の調査を行った。

調査区北側では、斜面を切り込んだ１３ｍ×１４ｍの平坦面とそれに伴う石組階段を検出した。しかし、この平坦面では建物跡は検出されなかった。一方、調査区南側では、コの字形にめぐる低土塁にかこまれた中に、幅の狭い郭が、３段検出された。最上段の郭から、２間×１間以上の礎石立建物１、最下段の郭から、柵列１が検出された。いずれも、これらの遺構は、室町時代の遺構と考えられる。

また、可能性のあるものまで含めると７カ所の中世墓が検出された。いずれの中世墓に於いても、蔵骨器は見られず、山茶椀、刀子などを副葬する土壙墓で、流出しているものが多いが、本来上部に方形の石組をもったものと考えられる。中世墓は、１３世紀代のものと思われる。

出土遺物は、中世墓に伴うものとして、山茶椀、山皿、土師器皿、刀子があり、城の遺構に伴うものとしては、青磁椀、天目茶椀、擂鉢、鉄釉皿、土師器皿、永楽通宝などの銭貨、などがある。その他には、白磁合子、椀がある。

今後、昭和５９年度に残り$\frac{2}{5}$の調査予定。

山田遺跡（東員町大字山田・旧遺跡名山田廃寺）

事 業 名　東員町総合体育館建設

調査主体　東員町教育委員会（松本　覚）

調査期間　５８年５月１８日～１０月４日

調査面積　３,２００㎡

概　　要　遺跡は員弁川北岸、標高３８ｍに位置し、現在は東員町役場庁舎の敷地となっている。そして、既に５７年に、武道館建設のために、６００㎡の調査を実施している。

調査の結果、掘立柱建物１１棟、土壙１２、溝１０条等の遺構を検出している。遺物は縄文時代晩期の合口甕棺、古墳時代～奈良時代の須恵器、土師器、そして、平安時代～鎌倉時代の灰釉陶器、山茶椀、土師器の出土を見ている。さらには、陶硯、緑釉陶器の出土を見ているので、遺跡が奈良時代の公的役割を果していた可能性が強い。

なお、今回の調査においても、礎石、古瓦の検出を見なかったので、遺跡名称を、山田廃寺から山田遺跡に変更した。

道進遺跡△（東員町大字長深字道進）

事 業 名　農村総合整備モデル事業

調査主体　東員町教育委員会（松本　覚・久志本鉄也）

調査期間　５８年１１月４日～１１月１０日

調査面積　３００㎡

概　　要　遺跡は小島台地の標高約５０ｍの台地上に位置する。５０カ所の試掘区を設定し、調査を実施したが、２グリッドで柱穴の確認を見、また、１グリッドで、土師器、須恵器を多数包含する土壙を確認している。さらに、中世墓と想定される遺構の確認も見ている。そして、出土遺物の須恵器、土師器は古墳時代～奈良時代の頃と考えられる。

調査の結果、遺構確認個所は、事業地内でも比較的高所にあり、抜根のみの工事的対応により、保存されることになった。

白瀬城跡（藤原町大字本郷字中森山）

事 業 名　中部電力株式会社送電線鉄塔建設

調査主体　藤原町教育委員会（伊藤治義、藤原町文化財調査員　松本　覚）

調査期間　５８年１１月２４日～５９年１月１３日

調査面積　８５０㎡

概　　要　城跡は員弁川上流北岸、標１７０ｍに位置し、主郭に隣接する郭を調査した。建物跡等の遺構は確認できなかったが、礎石に使用されたと想定される同種の１０余石の確認を見ている。

出土遺物として、土師器皿、天目茶椀、擂鉢、徳利、灰釉皿等の陶器の他に、青磁片、白磁皿、染付皿、古銭、硯が見られる。これらの出土遺物は、山田城跡（５７年調査）出土のものと極似するものが多く、１６世紀初頭～前半に集中していると想定される。

八幡山遺跡他※・△（四日市市河原田町・小古曽町）

事 業 名　埋蔵文化財緊急調査

調査主体　四日市市教育委員会（北野　保・森　逸郎）

調査期間　昭和５８年７月２５日～１２月１９日

調査面積　約1.０００㎡

概　　要　調査は、東西に延びる標高約５０ｍの丘陵のほぼ頂部、東西約６００ｍ、南北約３００ｍの範囲のうちの畑地約４５筆をとびとびに選び、トレンチによる発掘を行なった。

丘陵の中央部で検出した竪穴式住居跡は、一辺約6.5ｍの規模で、壁面の内部に四周する溝と中央西寄りに炉跡と考えられる焼土を有している。平面形態隅丸方形の弥生時代後期のものであるが、東南部のみが約1.8ｍ拡張されたと考えられる痕跡が明らかとなった。したがって、この部分の全体の長さは、約8.3ｍを計る比較的規模の大きな竪穴式住居跡といえる、主柱は、初期の段階では４本柱であるが、その後の段階で２辺のみに１本ずつ増やされたと推定される。また、このトレンチでは、近接して同時期の竪穴式住居跡の一部や溝及び土壙なども認めた。

その他、いずれも幅約２ｍのトレンチを基本としたため、全体の規模・構造などに不確実な点があるが、丘陵の東端部で少なくとも３基以上の、また、約１ｍ四方の中世の土壙を、さらに反対の丘陵の西端部でも２基の竪穴式住居跡を検出した。いずれも中央部で検出したものと同様に、同時期であり、平面形態が隅丸方形となるものと考えられる。

検出した遺物の大半は、後期の弥生式土器であるが、これに伴う土錘や、別に石斧・砥石各１点あるいは、古墳時代後期の完形の須恵器杯や若干の中世陶磁器・土師器皿がある。

いずれにしても、今回の調査は範囲確認が目的であり、広大な丘陵の一部の遺構について明らかにしえたにすぎないが、後期を主体とした集落跡が、今回の調査の範囲にほぼ及んでいるものと考えられる。

六谷遺跡※（菰野町小島字六谷）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋・菰野町教育委員会　神田　薫）

調査期日　昭和５８年１０月１９日～昭和５９年１月１４日

調査面積　6,０００㎡

概　　要　朝明川左岸の河岸段丘上位面に位置し、舌状にのびる台地を中心に総面積約３万㎡の大複合遺跡である。調査は水路及び削平部について実施し、A区（西区）、B区（東区）に分れる。A地区では平安時代末頃の身舎５間×３間で四面廂が付く大型掘立柱建物、３間×２間の建物２棟の他、奈良時代の竪穴住居３軒等を検出した。B地区では奈良時代の大型掘立柱建物（５間×３間）２棟、２間×２間の総柱建物等の他、竪穴住居１０軒余を検出した。出土遺物としては縄文時代後期（A地区の土壙で一括出土）を上限として各時代みられるが、奈良時代が量的に最も多く、その他、下限としては平安時代～鎌倉時代後半までの遺物（灰釉陶器、山茶椀、陶器など）の出土量も多い。特にB地区では掘立柱建物の規模も大きく棟方向も一致し、規則性がうかがわれ、一般集落ではなく役所的な建物群とも推定される。遺跡の推移としては舌状台地の東端から時代を追って西への推移が考えられ、中世を経て、現在の集落（山手）に移ったことも推定できるが、詳細な検討は今後に期したい。

孤塚古墳△（菰野町大字大強原字孤塚）

事 業 名　三重県土地開発公社　松山工業団地造成工事

調査主体　菰野町教育委員会（神田　薫）

調査期間　昭和５８年８月２３日

調査面積　４８㎡

概　　要　海蔵川左岸の標高６０ｍのゆるやかな台地の南側斜面にある。古墳は昭和４０年頃養鶏場建設によってマウンドは消滅している。東西に幅２ｍ、長さ２０ｍにわたり試掘壙を入れ、遺物包含層確認のため東西の端を約７０cm掘り下げた。表土と下部層との境は開発行為によるかく乱のため明瞭には検出で

きず、また、遺構、遺物も検出できなかった。表面踏査により1カ所、マウンドを発見、トレンチを入れたが、単一の土層で北側部分の穴の掘り上げ土の盛土と思われ、遺物等の検出はできなかった。

正法寺山荘跡※（鈴鹿郡関町鷲山字加まへ）

事 業 名　史跡環境整備

調査主体　関町教育委員会（四日市市教育委員会　北野　保）

調査期間　昭和58年9月29日～11月12日

調査面積　約900㎡

概　　要　今回の調査は、山荘跡中央部の土壇の東北隅と、昨年度一部検出した石積通路の延長及びその東側並びに北側を対象とした。調査の結果、検出した主な遺構・遺物は下記のとおりである。

土壇東北隅　遺構の残存状況は後世の開墾などによって、ほとんどの石材が取除かれており、約50㎝大の基底部の石材と裏ごめ石の検出で南北約25m、東西約10m分を確認した。この結果、中央部の土壇の南北の規模が明らかとなった。

石積通路　上記土壇の石垣を西側の側石として、幅約1.8mの規模を有し、東側にも石積みをした南北方向の通路である。昨年の調査で検出した中央部の土壇から東側に張り出す南北約15m、東西約16mの土壇から北側に通じるもので、長さ約29mを計る。基底部の約30～50㎝大の石材が確認された。なお、この石積通路部分よりも一段低くなった東側部分では、多くのピットを検出したが、建物跡としてまとまるものはない。

石積井戸　中央部の土壇の東北隅から約7m離れた東北部分で検出したもので、径約1m、深さ約1.3mの円形の石積井戸である。約30㎝大の石材を積み、底部は地山の岩盤をくりぬいている。石材は5段ほど残存していた。調査例では3基目である。

中央部の土壇から約10m離れた山荘跡の北側部分に幅約4m、長さ約40

mの東西トレンチを設定して調査を行ない、下記の遺構を検出した。

石積溝　トレンチの北寄りに、長さ約１５m、幅約１０cmの規模を有する石積溝で、直線的ではなく、蛇行しており、底部には約３０cm大の扁平な石を置き、その上の両側に約１０～２０cm大の小石を側石としているものである。レベルは西高東低で、溝の西端部は、径約８０cmの浅い土壙で、中に小石が敷かれているだけであり、他にこれといった遺構は無かった。溝の東端部は、長さ約4m以上、幅約2m、深さ約1mの落ち込みとなり、さらに東側に延びている。おそらくは、山荘跡の外周をとりまく土塁の部分まで続いているものと考えられる。

遺物は、完形の径約１５cmの土師器皿をはじめ、青磁皿、天目茶碗、羽釜、鍋、山茶碗、山皿及び軒丸瓦、軒平瓦、平瓦などと角釘、古銭である。

長遺跡（津市長岡町字小山田）

事業名　住宅団地造成

調査主体　津市教育委員会

調査期間　昭和５８年８月１日～９月３０日

調査面積　７００㎡

概　要　美濃屋川左岸の標高約４０mの丘陵上にあり、試掘調査によって遺構・遺物が検出された津西高搬入路の東側地域の全面を調査した。

調査の結果、弥生時代中期後半の竪穴住居１２棟、土壙１基、L状の溝１条が出土した。竪穴住居の完存例は全て長方形で、最大規模のもので一辺6.8×5.4mあり、床面中央に炉を伴っており、床面の拡張が認められたものもある。遺物のうち弥生土器は第Ⅲ～Ⅳ様式で、壷・甕のほか少量の鉢がある。この他に大型石庖丁、砥石、小型石斧がある。

美濃屋川左岸の丘陵上での弥生時代集落跡の初見例であり、南方に対峙する半田丘陵上の集落が弥生時代後期に始まるのと相異する。また、安濃川流域の拠点的集落である納所遺跡の竪穴住居が不整形例が多いこととも相異する。

川北城跡（津市大里川北町）

事 業 名　住宅団地造成

調査主体　津市教育委員会

調査期間　昭和５９年１月２３日～３月３１日

調査面積　６,０００㎡

概　　要　志登茂川左岸の標高約３０ｍの丘陵上にある鎌倉後半～南北朝期にわたる中世城跡である。昭和５３年の第１次調査に続くもので、今回は主郭を構成すると思われる部分を中心に調査した。前回調査した土橋を持つ堀は東西70ｍ、南北５０ｍで一周し、その中に大型の柱穴を持つ建物群が見られる。また曲物、木組井戸枠を持った井戸などが検出されている。堀の西側には、方形土壙を伴う掘立柱建物も発見されている。

また、丘陵の西側には古墳時代前期の竪穴住居跡１７棟が検出され、その数は最終的には数十棟にのぼると思われる。ほとんどが排水溝を持ち、中にはこれが一本の溝につながるものも見られる。

その他７C前半の円墳の周溝・弥生時代中期の土壙なども検出されている。

専修寺如来堂（津市一身田町）

事 業 名　如来堂保存修理

調査主体　専修寺（津市教育委員会　萱室康光）

調査期間　昭和５８年１２月１３日～１２月１６日

調査面積　４０㎡

概　　要　重要文化財建造物専修寺如来堂の保存修理（昭和５８年度国補事業）に伴う素屋根基礎下の遺構確認のため、試掘坑５箇所を設定した。調査の結果、建築物の遺構は確認されなかったが、如来堂建設のための地盤の基礎の様子を確認することができた。それによると、青褐色粘土層のやわらかい地層の上に小石を含む山砂を約１ｍにわたり版築しており、範囲は現在の基段とほぼ同じと思われる。

上野城跡（河芸町上野字城屋敷）

事 業 名　本城山公園整備事業

調査主体　河芸町教育委員会（西郊中学校　浅生悦生）

調査期間　昭和５８年８月１８日～８月３１日

調査面積　２００㎡

概　　要　参宮街道に沿う上野地区の町並を見下す標高約３０ｍの台地上に位置し、台地の東端は断崖状となり、他は狭長な谷が入っている。昭和５４年度から公園整備事業に伴う調査が実施され、本年は城跡の最高所に当る本丸跡北西の櫓台状部に町立資料館建設予定地について実施された。

調査の結果、櫓台上部では明確な遺構はなく、東斜面の下部で幅１.７ｍの細長い犬走りを検出した。また、東辺の基底部に平行して幅約１ｍ、深さ約３０㎝のＵ字溝があり、北端は東西方向の土塁の南辺で東折し、南端は櫓台南辺基底部に沿ってＬ字状に屈曲し、その西端は本丸西辺の内側土塁に沿ってさらに南折することが確認された。遺物は少量出土したが、大半が中近世瓦片であり、軒平瓦には本城主分部家の紋がある。他に常滑甕、鉢、石臼片が出土した。

野呂氏館跡※（安芸郡芸濃町椋本）

事 業 名　町道新設及び個人住宅建設

調査主体　芸濃町教育委員会（西峰博之）

調査期間　昭和５８年６月１日～１２月５日

調査面積　２.０００㎡

概　　要　野呂館跡は安濃川左岸の椋本台地南端に位置し、雲林院城をはじめ安濃川流域の諸城を一望でき、中勢の雄長野氏一族の雲林院氏家臣野呂氏によって築城、天正の頃廃城されたと伝わる。

館跡は外堀の一部が開墾、削平されているが大部分残存しており、現況は８０×８０ｍ、内郭は３８×４０ｍほどの規模がある。三方を二重の堀と土塁がめぐり、南は落差１０ｍほどの崖となっている。また、同様の郭は、東方２００ｍほどの椋本神社まで連続してつくられており、要害の地を形成している。

今回の調査は、北側の堀と土塁部分、内郭の西側１０×３０ｍで全貌は不明だが以下の結果を得られた。

主要遺構としては、郭西端の土塁裾をめぐる２次にわたって修築された石垣（全長２５ｍ）、蒸し風呂と考えられる石組炉跡２基、井戸及び洗い場と考えられる石敷（1.4×1.4ｍ）、石組方形土壙・掘手の一部を構成すると考えられる築地状土壇や石段等を検出した。遺物量は少なかったが大型土師器杯や常滑産の大型甕が出土した。

今回は調査範囲が限られたものであったが、戦国時代後半の土豪層居館の実態を知る上で貴重な成果を得られた。なお、玉城町宮古には県指定文化財の蒸し風呂が現存しており、今回の蒸し風呂と考えられる石炉の発見は、その初現を考える上で重要なものである。

新屋南方遺跡△（久居市新家町）

事 業 名　工場用地造成事業

調査主体　久居市教育委員会（辻　富美雄）

調査期間　昭和５８年７月２７日～８月１日

調査面積　７０４㎡

概　　要　工場用地全域にわたり４ｍ四方の試掘調査トレンチを４４箇所設定し、表土から土層ごとに掘り下げ調査をした。

土層は３層からなり、第３層は砂の堆積層で雲出川の氾濫原となっている。

試掘トレンチの一部に少量の土師器を含むほかは何ら遺構・遺物は発見されなかった。

中野山古墳群（一志郡一志町八太字中野山）

事 業 名　土取り事業

調査主体　一志町教育委員会（久居市教育委員会　辻　富美雄）

調査期間　昭和５８年１１月１０日～１２月２０日

調査面積　１８０㎡

概　　要　一志町八太の集落を見おろす中野山南面尾根上に古墳群が形成されている。中野山は一志町から嬉野町にわたる大古墳群の一画を形づくる。

古墳群の調査は尾根上の５号墳とすそ部の１２号墳を調査した。５号墳は尾根を整形し、墳丘を作った円墳で直径１５ｍ、高さ３ｍの規模を持つ。墳丘頂部を８ｍ×２ｍ、深さ１ｍの土壙を掘り、３.１ｍ×０.７ｍの木棺を埋納した、木棺直葬墳である。土壙内出土のカメ片より５世紀後半の構築と考えられる。１２号墳は直径１０ｍ前後の円墳と思われるが、墳丘はすでに上取りのため消滅していた。調査は周濠の一部を行ない、周濠内に８５㎝×４５㎝、深さ３０㎝の土壙に平石を使用した箱式石室が発見された。石室内より出土した須恵器提瓶より７世紀初頭に構築されたと考えられる。

上出城跡△（一志町波瀬字野口）

事 業 名　町水道貯水槽拡張事業

調査主体　一志町教育委員会（高宮小学校　本堂弘之）

調査期間　昭和５９年３月２６日

調査面積　２４㎡

概　　要　波瀬地内の北西にある標高約１０６ｍの独立丘陵上に位置し、数年前に貯水槽建設工事のため削平された経過がある。２×４ｍの試掘壙３箇所を設けた結果、全て攪乱を受けていることが確認された。

真見遺跡△（白山町大字真見）

事 業 名　団体営圃場整備事業

調査主体　白山町教育委員会

調査期間　昭和５８年７月１３日～７月１４日

調査面積　８０㎡

概　　要　雲出川右岸の標高約６０ｍの河岸段丘上にあり、現状は真見集落と国鉄名松線にはさまれた水田である。踏査により遺物散布が認められた地域に、２×４ｍの試掘坑１０箇所を設定した。調査の結果、地山は地表から約４０～

８０cmの茶褐色砂質土で、遺物包含層はほとんどなく、少量の中世土師器片が出土したほかなんら遺構を検出しなかった。

草山遺跡（松阪市久保町字草山、下村町字草山）

事業名　三重交通株式会社　宅地造成

調査主体　松阪市教育委員会（榎本義譲　伊勢野久好）

調査期間　昭和５８年４月１日～昭和５９年３月３１日（昨年度より継続調査）

調査面積　約１１,０００㎡

概　要　草山遺跡の立地する丘陵は、久保古墳の位置するところより東西に分かれ浅い谷を形成する。西側丘陵と谷地形部分の$\frac{1}{2}$については、調査開始当初は私有地で調査の範囲外であったが、その後、三重交通ＫＫにより買収され、昭和５８年８月には開発計画が出されるに至った。９月１日から２週間、２６カ所のグリッド（４×４ｍ大）を設定し試掘を行った結果、西側丘陵全域に遺跡が広がっていることが明らかになり、久保古墳に続く５,０００㎡を保存地区とし、他は調査を行うこととなった。このため、当初１５,０００㎡だった調査面積は約２４,０００㎡と広がることになった。

昨年度からの調査面積は、約２０,０００㎡、検出した主な遺構は右の表に示したとおりである。

遺構	時期	数
竪穴住居	弥生後期～古墳初頭	88
	奈良	8
掘立柱建物	弥生後期～古墳初頭	54
	奈良	18
	中世	29
	時期不明	2
井戸	弥生後期	1
	奈良	2
	中世	22
	近世	2
方形周溝墓	弥生後期～古墳初頭	24
古墳	５世紀末	1
方形台状遺構	５世紀末	1

昭和５８年度の調査で特筆すべきこととしては、次の３点がある。

まず第一は、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての村の遺構が、ほぼ全体にわたって明らかになったことである。その遺構の配置を見ると、東側丘陵

の尾根が東から北東へゆるやかに向きを変えるあたりから丘陵端にかけて、西側緩斜面を中心に、竪穴住居８８棟、掘立柱建物５４棟が位置し、それらを見下す尾根頂部から西へ１３０ｍの間に、２２基の方形周溝墓が尾根に沿って並んでいる。ほかに２基が緩斜面中位に位置している。この２４基の方形周溝墓について、盛土が確認できたのは２基、主体部が検出できたのは１基である。主体部からは、東側に直刀、剣、槍、小玉（７０４個・グリーンタフ）、西側に有孔円板、携帯用砥石、刀子、櫛が検出された。

第二は、東側丘陵が東から北東へ向きを変えるところの尾根上に位置する方形台状遺構の調査である。それは地山を削り、9.1ｍ×7.8ｍの方形の台状部をつくり、盛土をしたものである。盛土は基本的には３層からなり、遺物は、その中間の灰黒色砂質土層（厚さ１０～２０㎝）より出土した。出土品のほとんどは土製品で、人形３０、獣形８（内１点は犬）、円板形（鏡２点、他は不明）、玉形１４（丸形１０、切小玉１、勾玉３）、ミニチュア土器、棒状土製品等がある。その他、有孔円板１、須恵器甕１がある。本遺構の営造時期については、須恵器甕より５世紀末頃と考えられる。なお、同時期の遺構としては、本遺構の北１２ｍに位置する草山古墳（円墳、径１２ｍ、周溝巾３ｍ、墳丘は削平）がある。

第三は、現在調査を進めている奈良及び中世の集落遺構である。特に中世の遺構については、南東隅に建物の１×２間分に相当する方形土壙を有する４×４間規模大から５×７間規模大の掘立柱建物が７棟検出されている。それらは井戸を伴い、２×２間、２×３間規模の掘立柱建物が附属するものもある。谷地形から西側丘陵にかけて、２０～３０ｍの間隔をおいて点在している様子は、中世の村落を考える上で興味深い。

なお、これまでの調査結果の概要については、月報１～８に事実報告の形でまとめてきたとおりである。また、調査は、残り約4,000㎡で５９年７月にすべて終了の予定である。

曲遺跡△（松阪市曲町字絵図河原）

事 業 名　新設中学校建設

調査主体　松阪市教育委員会（下村登良男）

調査期間　昭和５８年１１月２８日～１２月６日

調査面積　２４０㎡

概　　要　曲町集落の西一帯の畑地帯に広がる曲遺跡の南半部分ー県道合ケ野・松阪線と堀坂川に囲まれた約４０,０００㎡の地に新設中学校の建設が決定されたため、確かな遺跡の範囲を知る目的で試掘調査を実施した。建設地全体は土砂を搬入して１～２ｍほどグラウンド面をかさ上げするため、運動場予定地は試掘対象地からはずし、校舎棟及び体育館の建設が計画されていた堀坂川に沿う部分を調査とした。試掘は幅２ｍ、長さ１５ｍほどのトレンチ8カ所を設定して行った。その結果、建設計画地の東半に当るトレンチの一つから奈良時代の土壙（径約２ｍ、深さ１ｍの円形のもの）が検出され、多くの土師器・須恵器が出土した。中には良好な暗文をもつ土師器椀もある。なお、これ以外のトレンチでは少量の土器片の出土があったのみで、生活遺構は検出されなかった。たゞ弥生土器片もあって遺跡の形成の初現時期がうかがい知れる。

試掘結果は、建設計画地の西半部分には生活遺構が存在しないことを推定させた。そこで、体育館、校舎等の施設を西半部分に集中することとで建設計画が検討されている。

岩穴古墳（松阪市西野町岩穴）

事 業 名　個人宅地造成

調査主体　松阪市教育委員会（下村登良男、伊勢野久好）

調査期間　昭和５８年７月１１日

調査面積　約２㎡

概　　要　西野町岩穴集落の錦晃堂氏宅裏の丘陵北側斜面で、宅地造成工事の際発見された古墳である。工事により生じた急崖面に、横穴式石室の玄室部、奥壁よりの一部が露呈していた。玄室の幅は、１.１ｍであり、奥壁からの長さ0.9

m、高さ1.2m部分しか玄室は残っていなかった。ために、石室の全貌は不明である。石室は、ほぼ南北に主軸をとり、南に羨道が開口していたものと思われる。

出土遺物は、奥壁東隅で須恵器杯身（完形）が検出されたのみである。他にも須恵器杯蓋、広口壷、甕が工事の際に採取されている。器形の特徴から、当古墳は6、7世紀の交に築造されたものと推定される。

薮の下遺跡（松阪市岩内町大字薮の下）

事業名　県営農林基盤総合整備パイロット事業

調査主体　三重県教育委員会（中村信裕）

調査期間　昭和58年12月15日～12月16日

調査面積　約130㎡

概　要　岩内町集落の東に近接する台地端部に位置し、東の眼下には伊勢平野が展開する。標高は約80mである。

今回の調査は、削平される排水路部分2カ所に限られたため、トレンチ調査であった。遺構として、掘立柱建物2棟、土壙2基を検出した。遺物として、土壙やピットから土師器（鍋・皿）、山茶椀が出土しており、鎌倉時代後期が中心で室町時代に入るものもある。その他、青磁、天目茶椀等が包含層から検出された。

以上のことから、面積が限られたが、岩内地区では最辺の発掘調査となり、中世の建物跡が検出されたことにより、中世の集落は岩内町の現集落と重なり合って存在していたと予想される。

斎宮跡※（明和町斎宮）

事業名　重要遺跡確認調査

調査主体　三重県教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和58年7月1日～昭和59年3月14日

調査面積　5,565㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
49	6ADI—D・V・W・X・U	㎡ 1,815	58. 7. 1～58.10. 7	明和町斎宮字上園 3038、3082、3080 3077、3078、3079	明和町	計画的面調査
50	6ACH—H	1,100	58. 8.18～58.11.19	〃　竹川字東裏	個人	計画的面調査
51	6AFF—D	1,900	58.11.18～59. 2.28	〃　字西加座	個人	計画的面調査
52	6AGF—D	750	59. 1. 5～59. 3.14	〃	個人	計画的面調査

斎宮跡※（明和町斎宮）

事業名　史跡現状変更

調査主体　明和町教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和58年6月1日～昭和59年3月31日

調査面積　3,848㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
48—1	6ACM—M	㎡ 1,050	58. 6. 1～58. 6.30	明和町斎宮字広頭 3385	明和町	小学校プール新設
48—2	6ADP—Q	27	58. 5.23～58. 5.27	〃　字牛葉	個人	個人住宅
48—3	6ABL—M	116	58. 5.25～58. 6. 1	〃　竹川字中垣内	個人	〃

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者	備考
48—4	6AGL—B	㎡ 33	58. 5.30～ 58. 6. 3	明和町斎宮字東前沖 2480	個人	個人住宅
48—5	6AGD 6AFE	260	58. 7.26～ 58. 8.31	〃	明和町	町道側溝新設
48—6	6AGC—A	84	58. 8.18～ 58. 8.31	〃 字西前沖	個人	個人住宅
48—7	6ADT—H	120	58. 9. 5～ 58. 9.17	〃 字木葉山	個人	〃
48—8	6ACL— E・F・G	930	58.10.11～ 58.11. 7	〃 字東裏 334—15他	個人	〃
48—9	6AEU—J	102	58.11. 2～ 58.11.11 第2次 58.11.15～ 58.11.18	〃 字鈴池 341—1	明和町	防火水槽新設
48—10	6ADT—B	25	58.11.29	明和町斎宮字牛葉 字木葉山	明和町	町道側溝新設
48—11	6AGP—E	93	58.12.15～ 58.12.21	〃 字鍛冶山 2351—1他	個人	個人住宅
48—12	6AFC—	128	59. 2.15～ 59. 2.23	〃 字西前沖 2604—8他	個人	〃
48—13	6ACM—O	840	59. 2.20～ 59. 3.31	〃 字東裏 283—2	明和町	小学校校舎
48—14	6AET—	40	59. 3. 1～ 59. 3. 5	〃 字牛葉	明和町	町道側溝新設

藤原遺跡△（多気郡明和町有爾中字藤原）

事 業 名　遊技場新築

調査主体　明和町教育委員会（中野敦夫）

調査期間　昭和５８年８月１２日～８月１３日

調査面積　４２㎡

概　　要　近鉄斎宮駅南西1.5㎞、県道松阪・伊勢線の南側に位置し、藤原遺跡北隅にあたる。事業地4,900㎡に２ｍ×３ｍの試掘壙を７箇所設定し調査した。その結果、耕作土中に若干の遺物を含んでいたが、遺構は検出されなかった。今回の調査で藤原遺跡は当地付近まで広がっていないと考えられる。

大道遺跡△（多気郡明和町池村字大道）

事 業 名　山土採取

調査主体　明和町教育委員会（中野敦夫）

調査期間　昭和５８年８月１日～８月１１日

調査面積　９９㎡

概　　要　県道松阪・伊勢線１㎞、玉城丘陵の北縁中央部にある標高４０ｍを越す独立丘陵の最北端に位置する。当地は、戦時中、高射砲が据えられていた所でもあり、すでに開墾又は削平を受け、旧地形はかなり変化している。事業地3,000㎡に３ｍ×３ｍの試掘壙を１１箇所設定し調査した結果、頂上部から弥生時代前期の土器片が、裾部から土師器・甕・鍋・椀・須恵器・青磁・山茶椀など多数出土した。弥生時代の遺構は検出できなかったが、中世の溝を検出したほか、崖には土壙の断面を見ることができる。以上の結果に基づいて、来年度以降に本調査する計画である。

茶屋前遺跡△（伊勢市西豊浜町野依字茶屋前）

事 業 名　豊浜中学校講堂防音改築事業

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和５８年８月９日

調査面積　８０㎡

概　　要　外城田川左岸の字茶屋前地区は、『豊浜村考古誌考』等より明治の中頃ぐらいまでは、カンジョ塚、中塚等多くの古墳があったと推定されている地域である。現在グランドになってはいるものの遺構等が残存している可能性があるため、総計画面積８８５㎡のうち約８０㎡の試掘調査を実施した。

調査の結果、層位はグランド整地土、礫・ブロック・配材混りの粘質土、黄褐色砂質土、ジャリ層、礫層となり、まったく遺物包含層は認められなく氾濫原の様相を呈していた。

おそらく古墳等の所在地は、茶屋前地区の南端の方に求めることができると考えられよう。

中ノ垣外遺跡※（伊勢市佐八町中ノ垣外）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（高見宣雄・伊勢市教育委員会　岩中淳之）

調査期間　昭和５８年５月２３日～昭和５９年１月３１日

調査面積　約８５００㎡

概　　要　宮川右岸標高１３ｍ前後の河岸段丘（沖積平野）下位面に位置する。県道伊勢・南島線沿いに所在する延喜式内社である園相神社の西約１５０ｍにあり、現況は畑地である。すぐ南東の一段高い段上（洪積地）には旧石器時代の元新田遺跡がある。縄文時代の遺跡としては北東約８００ｍに佐八藤波遺跡がある。また、元新田遺跡のすぐ南方には昭和５６年度県教育委員会が発掘調査し、鎌倉時代の集落とされる中新田遺跡が所在する。

検出された遺構としては、弥生時代の竪穴住居２棟、古墳時代の竪穴住居２棟、奈良時代の竪穴住居４棟、平安時代の掘立柱建物７棟・溝・柵列等が、また、鎌倉時代に位置づけられる根石を持った掘立柱建物２０棟と、墓壙や溝等がある。

出土した遺物の年代幅は広く、縄文時代後期の土器、晩期の土器、弥生時代中期前半の壷、甕、古墳時代の須恵器の杯・土師器、奈良時代の土師器杯、甕、

甑や平安時代の土師器杯・甕、緑釉陶器・灰釉椀、鎌倉時代の山茶椀、青磁、おろし皿、土師器鍋・杯・小皿・羽釜・他に小刀・砥石・和鏡・北宋銭など多岐にわたり、多数が出土している。

以上のように本遺跡は、縄文時代後期から鎌倉・室町時代までの長期間連続的ではないにしても人が住みついて集落を形成して来たことが明らかである。また、本遺跡において、弥生時代中期の竪穴住居が検出されたことは、宮川右岸では初例ということもあり、当時代の開拓がこの地域にまで波及していたことが確実となった。また、鎌倉時代以降の掘立柱建物については、根石として扁平な川原石を用いており、前時代からの掘立柱建物の変遷過程や、これらの建物のほとんどに、南東隅に1×2間程度の掘形をした浅い土壙を伴っており、この土壙の性格づけと同時に、当時代の中世集落における建物の規模、構造を知る上からも貴重な資料が得られたものと言えよう。

なお、今回の調査では、地質学の分野の研究者の応援を得て、当遺跡の所在する河岸段丘下位面の形成過程を解明することに努めた。

中郷遺跡△（伊勢市上地町字中御前）

事 業 名　分譲宅地造成事業（個人）

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和58年3月15日

調査面積　64㎡

概　　要　宮川と汁谷川に狭まれた低地のほぼ中央にあたる標高7mの低台地に位置する遺物散布地（市№121）で、地目は畑地である。開発予定面積約600㎡のうち4×4mの試掘壙4箇所の調査を実施した。

調査の結果基本層位は、耕作土、黄褐色粘質土、黄褐色砂質土（地山）となりⅡ層において若干遺物を包蔵するのみで、各試掘壙とも遺構は全く検出されなかった。出土遺物も、鎌倉時代以降の土師器鍋細片、山茶椀片が出土したにすぎなかった。

地元の人々の話によれば、付近に塚がかなり存在していたようで、たとえば

本遺跡の南西３００ｍの所には石名畑古墳（７基）があり、昭和４２年に調査がなされ、当初古墳と推定されていたが古墳ではないことが判明しており、この地域にはかなり塚があったと考えられる。本遺跡の場合、このような塚が整地され、それに伴う遺物の散布が認められるのかもしれない。

明豆遺跡※（玉城町宮古字明豆）

事 業 名　団体営圃場整備事業

調査主体　玉城町教育委員会（宇治山田高校　奥義次・外城田小学校　大西素行）

調査期間　昭和５８年7月２１日～８月３１日、１２月２５日～昭和５９年１月７日

調査面積　1,４００㎡

概　　要　宮川の支流汁谷川右岸の標高約３０ｍに位置し、現状は水田である。基本層位は、Ⅰ層：耕土（２０cm）、Ⅱ層：黒褐色土（５０cm）、Ⅲ層：黄褐色土（３０cm）、Ⅳ層：赤褐色土（地山）となり、Ⅱ層からⅢ層へは漸位的に移り、分層は明確でない。Ⅲ、Ⅳ層には小礫が混在する。

遺構は、Ⅱ層下部で弥生時代の竪穴住居１棟、土壙１個を検出した。遺物には、縄文時代石鏃、弥生時代中期の土器のほか、Ⅱ層下部とⅢ層上部から先土器時代のナイフ形石器、尖頭状石器、スクレイパー、石核、剥片が出土した。ナイフ形石器は柳葉形で、径３cmの小形が多く、石材の大半はチャートで他は頁岩とサヌカイトである。

離宮院跡（小俣町２９３０）

事 業 名　町道改良

調査主体　小俣町教育委員会（小俣中学校　御村精治）

調査期間　昭和５９年３月３日～５日

調査面積　２４４㎡

概　　要　国史跡西側の町道拡幅に伴い、官舎神社敷地内の雑林地について調査を実施した。調査の結果、第Ⅰ層：表土、第Ⅱ層：暗褐色土、第Ⅲ層：黒色土、第Ⅳ層：地山の層位を確認したが、遺物、遺構は全く認められなかった。

天神遺跡（志摩郡阿児町国府大字天神）

事 業 名　一般地方道　安乗港線道路改良工事

調査主体　三重県教育委員会（中村信裕）

調査期間　昭和５８年９月５日～１１月１２日

調査面積　約1,５００㎡

概　　要　現在の国府地区の集落より西側丘陵の麓部にあたり、標高約１.５ｍである。遺構として、掘立柱建物４棟・溝・土壙等を検出した。遺物は、発掘面積に比較して少量であった。土師器（鍋・皿）・山茶椀・青磁・瀬戸系陶器（おろし皿）・土錘の他、縄文土器（中期）・須恵器甕も検出されている。時期的には中世（鎌倉・室町時代）が主体である。鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物が検出されたことから、昭和５４年度に調査された殿畑遺跡の資料とともに、この地域においては中世村落が国府海岸の山沿いに存在することが明らかになった。

浜田浜遺跡△（阿児町甲賀）

事 業 名　県道甲賀鹿谷線改良事業

調査主体　三重県教育委員会（杉谷政樹）

調査期間　昭和５９年１月２３日～２４日

調査面積　４０㎡

概　　要　国府白浜に南接する海浜砂堆に位置し、弥生時代から平安時代の遺物包含地である。現状の大半は水田であるが、一部に堤防があり、７箇所の試掘坑を設定した。その結果、全体に湧水が激しく、須恵器・土師器・山茶椀片少量が出土したのみで遺構も不明確であった。

下郡遺跡（上野市下郡）

事 業 名　一級河川木津川改修工事事業

調査主体　三重県教育委員会（中森英夫・吉水康夫）

調査期間　昭和５８年１０月３日～昭和５９年１月２６日

調査面積　1,550㎡

概　　要　本年度の調査は、昨年度において、上層で中近世の鍛冶工房施設をもつ屋敷跡が検出されたその下層部分1,000㎡及びその北に隣接する550㎡を対象とした。前者からは、調査区を東西に流れる弥生時代中期と古墳時代前期の溝各1条、及び昨年度検出の近世遺構面より下層で、近世の井戸、土壙等が検出された。溝2条からは、存在した時期を示すと思われる壷、甕等が出土した。

後者では、中近世遺構が検出されたのみで、下層遺構の存在は認められなかった。その一つに、中世城館の堀の一部と推定される南北の大溝がある。これは、本調査区の隣接地で、昭和55年度調査の東西大溝、昭和56年度調査の南北大溝と、規模、形態、埋土及び出土遺物等の同一性からみて、同一遺構の部分検出と考えられる。また、昨年度、上層で認められたと同様、鉄加工に関すると思われる遺構一基もある。それは、上層に鉄滓、下層に鉄分が溶流、沈着した凹凸の広がり（2m×3m）をもつものである。近世墓1基は、一辺1m、深さ30cmの土壙墓で、土壙の縁辺には、人頭大の川原石を菱形にならべてある。陶器甕、土師皿が出土した。ほかに、近世溝1条、井戸1基を検出した。

森寺遺跡他（上野市森寺、下郡、上郡地内）

事業名　地域改善対策農業基盤整備事業（ほ場整備）下郡第二地区工事

調査主体　上野市教育委員会、上野市遺跡調査会（山本雅靖・西森平之）

調査期間　昭和58年11月19日～昭和59年3月31日

調査面積　4,600㎡

概　　要　上野市南部に位置し、東を木津川が北流する。東は門堀遺跡、北は下郡遺跡に接した水田地帯で、南部および西部山麓には古墳が点在する。

発掘調査は、水路、道路、削平地についての調査であり、大別して7地区に分かれた。南部の台地先端では、古墳時代中期～後期の竪穴住居跡3棟、西部矢田川東岸沿いの地区と東部水田地区では、弥生後期の竪穴住居跡計6棟を検

出した。特に、矢田川東岸沿いの住居内からは、弥生後期の壷、甕、高杯のほか、ミニチュアの壷形土器が多量に出土した。以前に弥生のスキを出した中央北部水田（森寺遺跡）の上面では中世の水田跡を検出、下層からは、弥生時代後期の木製品（田ゲタ４、スキ１、建築材その他）が、多量に出土した。

また、最大の発掘区である中央南部台地の発掘区（２,５００㎡）からは、古墳時代の竪穴住居１４棟、掘立柱建物１９棟（うち倉庫６棟）を検出、この地域における一大農業集落の存在が明らかになった。

久米山古墳群遺跡（上野市守田町南平尾）

事業名　久米山団地造成

調査主体　上野市教育委員会・上野市遺跡調査会（野原宏司）

調査期間　昭和５８年４月１日～昭和５９年８月３１日

調査面積　約１２,０００㎡

概　要　久米山古墳群は、上野市の市街地の南方に位置する標高約２００ｍの久米山丘陵に所在する約６０基の古墳から成っている。今回、団地造成工事に伴い、１９基の古墳を対象に調査を開始、今年度はそのうち１２基の調査を実施した。

調査の結果、１２基の古墳のうち２基は古墳として認められなかったが、新たに６基の古墳を確認した。小屋根上に立地する古墳は、そのほとんどが円墳で、屋根上方側に周溝を有しており、内部主体は、竪穴式石室・横穴式石室。木棺直葬の３形態がみられ、副葬遺物には、須恵器・土師器・鉄製品・石製品が出土した。古墳群の築造年代は６世紀初～７世紀初と考えられる。

それぞれの古墳の概要は次表のとおりである。

久米山古墳群調査一覧表

（昭和５８年１２月３１日現在）

号墳	規模(m)		周溝	内部構造	出土遺物					備考
	径	高			須恵器	土師器	鉄製品	石製品	その他	
13	24	3		木棺			直刀			

14	20	3.5		横穴式石室	杯、高杯、壷 提瓶、甕	椀、壷	刀　子	紡錘車		
34A	12	0.3	○	〃	杯	椀			金　環	
B	4	0.5	○	竪穴式石室	杯	甕		紡錘車		人　骨 未盗掘
C							刀　子			石材残存
D		1	○	横穴式石室	杯、高杯、壷				金　環	
E	9	0.7	○	〃	杯、壷、提瓶 甕					
35A	8	1.5	○	竪穴式石室						
B	10		○		杯		鉄釘、鉄斧 鉄鏃		金　環	石材残存
38A	6	1		木　棺1						
B	10			〃　3						
41	16	1.6	○	竪穴式石室	杯	高　杯	鉄　鏃			未盗掘
49	9	0.8	○		杯　、　壷					石材残存
50	7	0.5		木　棺2	壷					
52	11	1.3	○	横穴式石室	杯	椀			金　環	
127	4	0.5	○	木　棺1	杯	壷	刀　子			

42，114号墳（自然地形）

和田遺跡（上野市大字喰代字和田７４２他）

事業名　広域市町村圏道路改良工事

事業主体　上野市教育委員会（山本雅靖）

調査期間　昭和５８年７月１９日～１０月１８日

調査面積　１２０㎡

概　　要　安場氏館跡に東接し、その関連施設遺構等の所在が想定された為、広域市町村圏道路改良工事に伴い調査を実施した。調査地は、上野市の東端、久米川の最上流域の河岸段丘上を中心として、標高は約２５０ｍ前後を測る。調査区内の大半は、礫の多い包含層からなり、当初想定した遺構は確認されなかったが、縄文早期遺物をはじめ、古墳時代遺物・中近世遺物等を検出した。遺構には、北部丘陵端で舶載白磁を副葬する中世土壙墓状遺構を確認した。

淵遺跡※（上野市下友生字淵）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（杉谷政樹）

調査期間　昭和５８年５月１８日～５月２７日

調査面積　５００㎡

概　　要　久米川中流右岸の沖積地に所在し、水田の中に土塁状の高まりが２カ所残っている。調査は、この２カ所に計５本のトレンチを設定して行った。その結果、土塁状に残っていたものは、いずれも砂及び礫で構成され、しかも、出土遺物は磨滅した土師器、須恵器片数点のみであった。また、周囲の水田は、湿田がほとんどである。これらの地形観察も含め土塁状の高まりは、久米川の旧河道に伴う自然堤防の一部と考えられる。

中島遺跡（上野市大字西明寺字中島２０６７－２他）

事業名　ホテル建設

調査主体　上野市教育委員会（山本雅靖）

調査期間　昭和５８年８月２９日～９月７日

調査面積　６２０㎡

概　　要　史跡伊賀国分寺跡の北約３００ｍに所在する同地で事業計画面積950㎡でホテル建設の建築確認申請が提出された。同地は、かねて分布調査により遺跡の所在が知られている地に近接して所在することから、試掘調査を行い、遺構の所在する約６２０㎡について調査を実施するところとなった。

遺跡は、荒木丘陵から服部川流域の平野部に向けて派生する標高約１６４ｍの台地上に形成されており、縄文時代以降、古墳時代後期、奈良時代末から平安時代、中近世の遺物が検出された。遺構には、奈良時代末以降と考えられる掘立柱建物・溝、近世池状遺構等が確認された。

岸ノ上遺跡※（上野市中友生字岸之上）

事業名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（杉谷政樹）

調査期間　昭和５８年９月５日～９月１０日

調査面積　２６０㎡

概　要　久米川中流右岸の河岸段丘上、中友生の集落の対岸に位置し、水田となっている。調査は、遺跡の南東部の削平部を対象とした。検出された主な遺構としては、奈良時代の竪穴住居１、平安時代末～鎌倉時代初の重複する竪穴住居３、瓦器椀・土師器皿・平瓦などの一括廃棄された土壙、小穴などがある。出土遺物としては、須恵器（杯、高杯、甕）、土師器、瓦器、瓦などがあるが、中でも前述の土壙から出土した瓦器は、１１世紀後半～１２世紀初の所産と考えられ、伊賀の瓦器編年上、良好な資料である。

大峯１号墳他△（上野市上郡外）

事業名　郡山団地造成事業

調査主体　上野市教育委員会（西森平之）

調査期間　昭和５８年８月８日～１０日（第１次）、１１月２９日（第２次）

調査面積　古墳の疑いのあるもの１０基の試掘調査、計約１５０㎡

概　要　大倉建設株式会社が、上野市上郡、下郡、森寺、古山地区にわたって、約１６０haにおよぶ住宅団地（仮称、郡山団地）を計画。それに伴って分布調査を実施した結果、事業予定地内に古墳と疑わしきもの１０基の存在が明らかになったため、第１次、第２次にわけて試掘調査を実施した。

調査は、十字を基本とするトレンチ調査である。試掘を実施した中で、百々

谷３号墳（上野市上野字百々谷）と天竺山１号墳（上郡字天竺山）の２基については、共に崩壊した石室や羨道が確認できたが、大峯１号墳を初め他の７基については、表土（腐食土）の下が明黄白色バイラン土の地山になり、周溝、主体部等、古墳と認定できるものは検出されなかった。

試掘調査により古墳と認められたもの２基と事前に確認されていた古墳２基の計四基について、現状保存のための協議を重ねた結果、うち、１基については保存可能となり、他の３基については、設計変更がどうしても不可能なため、工事着工前に発掘調査による記録保存を実施することに決定した。

大門遺跡※（上野市下友生字大門）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（杉谷政樹）

調査期間　昭和５８年５月２７日～６月２９日

調査面積　７００㎡

概　　要　久米川中流右岸の河岸段丘上、下友生の集落の東方に位置し、水田となっている。遺跡の西半には方形の地割が残り、調査は、その東側で遺跡の北東部分の排水路部分及びその周辺を対象とした。検出された主な遺構としては、掘立柱建物２、土壙、溝、小穴などがある。中でも土壙の内１基からは、平安時代前半の杯、皿、台付椀計６点が反位で一括出土した。出土遺物は、概して少ないが、前述の土壙及び他の小穴から出土した平安時代前半の杯、皿、台付椀や、室町時代の瓦質鍋が注目され、他に小片ではあるが、白磁、天目茶椀、擂鉢、瓦器、土師器がみられる。

狭間遺跡※（上野市枡川）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（吉水康夫）

調査期間　昭和５８年７月２２日～７月２８日

調査面積　約２００㎡

概　　要　比自岐盆地を形成する比自岐川はその本流である木津川に合流する手前で丘陵にはさまれた狭搾部を通る。狭間遺跡はこの北側に位置する丘陵の西向き斜面に位置する。今回県営圃場整備事業に伴って幹線排水路部分を対象に発掘調査を行なった。

調査の結果、平安時代末から鎌倉時代頃を中心とする遺物を含む数層の粘土層が堆積しており、遺構は何ら確認できなかった。また出土遺物は平安時代末から鎌倉時代の土器小片をはじめ用途不明の木製品、加工板材等も出土した。

今回の調査に先立つ試掘調査では調査区の東側に隣接する畑で若干の遺構が確認されていることから、現在の枡川集落に重複する遺跡の所在と、今回の調査区がその縁辺部にあたることが想定される。

宮浦中・近世墓（上野市比自岐字宮浦）

事 業 名　御代川災害関連事業

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛）

調査期間　昭和５９年１月９日～２４日

調査面積　２００㎡

概　　要　上野市の比自岐神社境内と御代川の河原におよぶ墓石群である。工事中に発見され、緊急調査を実施した。

調査の結果、石造遺物群は二次的に安置されており、埋葬遺構は認められなかったが、古墳時代や平安時代の包蔵地である事が明らかになった。事業地内の石造遺物は約６０点あり、地蔵尊像、童子像および積組式五輪塔、板彫五輪、方柱状墓石等に分かれ、戒名や造立年月日、梵字等の刻銘を持つものも多い。これらの多くは江戸時代前半に属す。出土土器には、古墳時代後期の須恵器やミニチュア土器、および瓦器椀、土師器皿等がある。

御所垣内遺跡※（名張市安部田４３３７）

事 業 名　団体営圃場整備事業

調査主体　名張市教育委員会（水口昌也）

調査期間　昭和５８年９月１２日～１２月３日

調査面積　約２,０００㎡

概　　要　名張盆地西南端、宇陀川左岸の丘陵斜面で標高２４０ｍの畑地に位置する。検出遺構は、弥生時代中期の竪穴住居跡４カ所、高床建物１棟、溝、土壙などと中世の掘立柱建物１棟で、多くの遺構は畑地の開墾により削平され遺存状態はよくない。竪穴住居はいずれも平面形が円形のもので、最大規模のＳＢ４では直径９ｍほどである。高床式建物は径１ｍ前後の大きな柱掘形をもつ桁行３間、梁間２間の建物である。土壙は木棺を埋納し土壙墓と推定される平面形が長方形を呈するもの２基と、性格不明の不定楕円形のものがある。出土遺物には、弥生中期の土器のほか石鏃、石錐、石槍などの打製石器や石斧、紡錘車など磨製石器、管玉、鉄斧などがある。

鴻之巣遺跡（名張市夏見字鴻之巣）

事業名　名張市中央東土地区画整理事業

調査主体　名張市遺跡調査会（水口昌也・門田了三）

調査期間　昭和５８年５月１０日～７月３０日

調査面積　約５,４５０㎡

概　　要　鴻之巣遺跡の発掘調査は、昨年度に続く第二次調査である。今回の調査では、前回と同じ古墳時代前中期、飛鳥時代、奈良時代の３時期の遺構の他、新たに鎌倉時代に下る柱穴も検出した。古墳時代の遺構はいずれも平面形が方形の竪穴住居で貯蔵穴や床面中央に焼土を伴うため、この時期のものと確認されるものが総数９棟である。飛鳥時代の遺構は２１棟の竪穴住居跡で古墳時代からの住居跡と同様平面形が方形であるが、いずれも周辺の壁面の一辺に床に扁平な板石を敷いたカマドを造り付けている。奈良時代の遺構は掘立柱建物跡３３棟、井戸２基、焼成壙１基の他、土壙や小柱穴群などで、掘立柱建物は２間×３間、あるいは２間×４間のものが中心であるが、倉庫様建物２棟も含まれる。井戸はいずれも素掘りのものであるが、１基からは「日」と墨書した須恵器杯が出土している。焼成壙は平面形が長さ２ｍ、幅１.６ｍの二等辺三角を

呈するもので、土師器の焼成壙と推定される。

壇・柏原遺跡※（名張市赤目町大字柏原字北戸～字垣添）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（田阪　仁）

調査期間　昭和５８年５月２３日～同９月７日

調査面積　５,５００㎡

概　　要　滝川右岸に広がる標高２１０～２２０ｍの水田地帯。南北に約1.100ｍのトレンチ掘りで、遺跡の全容はつかみにくい。対岸の上東野遺跡（昨年度調査）同様、古墳時代の竪穴住居跡が１５棟検出された。そのうちカマド跡を確認できるもの８棟、また全体のプランを検出できたものは６棟あり、他は発掘区の壁にさえぎられた。

最も遺存状態のよかったのはD区のＳＢ６で、カマドの周辺から完形の土師器高杯６点と須恵器杯身１点等が出土。このうちカマド内より出土した大小２点の高杯は、あるいはカマドの支脚に使われた可能性もあり、今後検討を要す。このＳＢ６は土壙等からも多数の高杯を伴出しており、中央部で見つかった石製模造品（破片１点）とあわせて特徴となっている。E区からはカマドを有する竪穴住居跡の他、中央に炉跡と考えられる遺構を有する竪穴住居跡もあり、多少の時期差を示している。

大略当該遺跡の古墳時代の竪穴住居跡は、５世紀後半～６世紀前半に比定され得る。

他に瓦器を伴出する掘立柱跡、井戸、溝、土壙があるが、掘立柱建物としてまとまりのあるものは少ない。瓦器椀や瓦器皿は１３世紀の初めに比定し得る。また上流のE区からは弥生時代中期の土器片の他、石鏃も少量出土しているが、明確な遺構としては検出できなかった。

赤坂遺跡※（名張市夏見字赤坂）

事 業 名　耕地整理（個人）

調査主体　名張市教育委員会（水口昌也）

調査期間　昭和５９年３月１日～３月３１日

調査面積　４００㎡

概　　要　名張市のほぼ中央、男山丘陵の南裾に県史跡・夏見廃寺が位置する。その南側、史跡指定地外の水田が耕地整理のため削平され、工事中に柱根が出土した。急遽５８年度国庫補助金事業として削平部分について調査を実施した。

結果、東西に柱間２．１ｍ、７尺等間の柱列と掘立柱建物２棟、集水的な落ち込みを検出した。柱列は、夏見廃寺の南面築垣とも思われ、掘立柱建物のうち１棟は、南北に長い切妻建物と推定される。西端の落ち込みからは多量の瓦と土器が出土し、軒平瓦には今まで夏見廃寺では未検出の型式も含まれる。「中」「寺」「食堂」などの墨書土器や、円面硯、浄瓶、緑釉陶器も出土した。

坂下遺跡△（大山田村坂下）

事 業 名　一般地方道伊賀・青山線改良工事

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛）

調査期間　昭和５８年５月２６日・１１月３０日

調査面積　４８㎡

概　　要　大山田村の南東山中に位置し、北向斜面の包蔵地である。３地点に分かれ、A、B地点を５月にA地点を試掘調査した。試掘坑は合計７カ所であるが、いずれも明確な遺構は認められず、少量の土師器・瓦器・陶器片が出土したのみである。

風呂谷城跡※（大山田村富永字風呂谷）

事 業 名　県営圃場整備

調査主体　三重県教育委員会（中森英夫・森前　稔）

調査期間　昭和５８年７月４日～１１月９日

調査面積　６，０００㎡

概　　要　服部川に向う標高約２８４ｍの舌状尾根の先端に位置し、現状は水田

で南方に眺望が広がる。平面が台形の主郭と副郭は南北に連なり、三辺に堀がめぐらされている。主郭は、北辺で約３６ｍ、南辺で約５６ｍ、南北約５５ｍあり、副郭との間に幅約６ｍ、深さ約４ｍの空堀があり、中央のやゝ東寄りに門跡と通路がある。副郭は、東西約５６ｍ、南北約８ｍである。三辺の堀は、幅約４ｍ、深さ約２ｍあり、犬走りがめぐる。

主郭は小溝で区画され、掘立柱建物５棟以上、井戸１基のほか、池跡、土壙が計画的に配置されている。

遺物は豊富で、土器（擂鉢、練鉢、瓦器、火舎、土師器、天目茶椀）、陶磁器、木製品（釣瓶、漆塗椀、盤、板）、石臼、笄、鈴、鉛玉などがある。

永井氏城跡（大山田村出後）

事業名　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（山田　猛）

調査期間　昭和５８年６月２８日～７月２６日

調査面積　５００㎡

概　要　当遺跡は、大山田盆地の南東縁の、北に張り出す丘陵上に位置する。

事業地は、永井氏城の外堤南面と古墳、およびこの両者の間の鞍部に及ぶものである。古墳北裾と鞍部を試掘調査した結果、古墳は事業地内にはおよばず、鞍部には少量の土器が出土した。そこで、上記の調査を実施した。

永井氏城跡の調査は、外堤部の平板測量と土層観察を中心とした。遺構に伴う遺物はなく、時代を限定するに至らなかったが、外堤は堀を掘削した際の岩混り土を盛り上げたものであり、二期におよぶ築成と推定された。

鞍部は、面的に掘り下げたが遺構は検出されなかった。しかし、サヌカイトの石器や剥片、縄文晩期の刻目突帯文土器、土師器等が出土した。下層のサヌカイトには、打面に自然面を残す横剥ぎ剥片やブレイドが見られた。中・上層出土の石鏃や石匙は縄文時代も前半に属すと推定される。

北切遺跡※（阿山郡大山田村富永）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋・田中喜久雄）

調査期間　昭和５８年９月５日～１２月１５日

調査面積　A区 1,５００㎡、B区 2,０００㎡

概　　要　北切遺跡は弥生～鎌倉時代にかけての複合遺跡で、伊賀盆地を流れる服部川上流に形成された標高２６０ｍほどの段丘上に位置する。現況は水田である。調査地区は県道津・上野線に沿ったところで、工法上包含層下まで削平される水田を中心とした。

調査の結果、A地区での主要遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓（１８×１６ｍ）１基・大量の中期弥生土器が出土した土壙群・古墳の周溝と考えられる円形周溝（径１０ｍ前後）３基・鎌倉時代の瓦器を伴う掘立柱建物跡１棟や小ピット群を検出した。なお、方形周溝墓の溝からは、頁岩製磨製石剣（１２cm）１本が出土、県下で４例目である。しかし、主体部は近世の水田開発によりすでに削平され、その痕跡をとどめていない。

B地区での主要遺構は、弥生中期の方形周溝墓（２０×１９ｍ）１基・古墳時代方形竪穴住居跡２棟・鎌倉時代の瓦器を伴う集石遺構１基や掘立柱建物２棟及び小ピット群を検出した。なお、方形周溝墓の主体部は、A地区のものと同様に削平されており、その痕跡をとどめていない。

伊賀地方で、方形周溝墓がほぼ完全な形で検出できたのは今調査が最初である。また、得られた弥生中期土器の一括資料は、伊賀地方の弥生文化・編年を考える上で重要なものである。加えて、服部川流域に所在する古墳はこれまで広瀬地区までと考えられていたが、今回の調査でさらに上流の富永にも所在していたことが判明、貴重な成果を得られた。

高顔遺跡※（阿山郡大山田村下阿波）

事 業 気　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（新田洋・杉谷政樹）

調査期間　昭和５８年８月３日～同年８月５日

調査面積　約３００㎡

概　　要　服部川右岸の沖積地と南の山麓の接点にあたる位置にあり、山の谷筋の両側の水田に所在している。面積は約２０００㎡と考えられるが、今回は削平度の高い狭い水田のみについて調査を実施した。

検出された遺構としては、掘立柱建物の一部、土壙２基、炭と焼土の充満した中世土壙墓１基、柱穴群がある。掘立柱建物は東西棟をもつ桁行３間以上、梁行２間と考えられ、時期的には柱穴内遺物から鎌倉時代と推定される。

出土遺物には瓦器（椀・皿）、土師器（鍋・小皿・羽釜）、陶器がある。発掘区中央東よりには地形的な窪地がみられ、原地形も谷筋であったことがよくわかった。発掘地から南約５０ｍの山の項上は阿波城跡として周知されている城跡も存在する。

ハサマ遺跡△（熊野市有馬町山崎）

事業名　一般国道３１１号線改良工事

調査主体　三重県教育委員会（井田小学校　古部　均）

調査期間　昭和５８年５月２１日～２２日

調査面積　４８㎡

概　　要　当遺跡は文化財調査員によって発見され、熊野市有馬町に所在する。公共事業照会によって該当する事が明らかとなった。そこで、遺跡の範囲や深さを知るために第一次調査を実施したものである。

調査は、試掘坑を１０カ所設定し、人力で掘り下げた。その結果、各試掘坑共深さ１０～３０cmで地山に至る所が多く遺構は確認されなかった。しかし、石斧や土師器、陶器の破片は少量出土し、灰釉椀や山茶椀等も表面採集された。以上の結果にもとづき、当該地域は遺跡の周辺部と判断し、工事は予定通り実施された。

津ノ森遺跡※（熊野市有馬町津ノ森）

事 業 名　個人住宅

調査主体　熊野市教育委員会（五郷中学校　古部　均）

調査期間　昭和５８年７月２３日～８月１８日

調査面積　２６２㎡

概　　要　熊野灘沿岸沖積地の標高５～１２ｍの微高地に位置し、南紀地方屈指の遺跡である。今年度の調査は、遺跡中央の西側に当り現状は荒地であり、Ｉ・Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ・Ｐ地区の８箇所を対象とした。

調査の結果、Ｉ地区で飛鳥・奈良時代の溝のほか、多数の土壙、ピットが検出されたが掘立柱建物としてのまとまりはない。遺物には弥生時代中期（第Ⅲ様式）、同後期の壺・高杯、古墳時代以降の土師器・須恵器・灰釉陶器、室町時代の山茶椀・天目茶椀、江戸時代の染付、陶器、瓦片が少量出土した。

後世の攪乱が著しく遺構にみるべきものはすくないが、特に弥生時代末から古墳時代前期の甕には、畿内と東海の両地方の影響が共存しており、当地方の歴史を究明するうえで貴重な資料をうることとなった。

Ⅳ　調査結果の公開

1. 三重県埋蔵文化財展

昭和４０年度以後、三重県教育委員会が実施している埋蔵文化財の発掘調査は約５５０件あり、出土遺物は整理箱で約15,000箱に達している。これらの膨大な遺物を含めて、調査結果の公開を望む県民の声が多数寄せられているため、昭和５６年度から三重県埋蔵文化財展を開催している。

本年度は、「三重の弥生文化」をテーマにして、県内の弥生時代の遺跡の代表的な遺物約２１０点を系統的に展示した。なお、展示期間中に随時展示品説明を行うとともに、発掘遺跡説明会を開催して、文化財保護思想の普及をはかった。入場者総数は1,４４９名であった。

（三重県埋蔵文化財展開催要項）

1. 趣　旨

三重県教育委員会が発掘調査を実施した遺跡から出土した各時代の土器・木製品・石製品２５０点余を公開・展示することにより、埋蔵文化財保護思想の普及と高揚をはかる。

2. 主催・協賛

(1) 主催　三重県教育委員会

(2) 協賛　熊野教育事務所管内各市町村教育委員会
尾鷲教育事務所管内各市町村教育委員会
紀南教育振興会

3. 期間　昭和５８年４月２５日（月）～5月8日（日）

4. 場所

（第１会場）熊野市有馬町熊野市歴史民俗資料館

（第２会場）熊野市有馬第２公民館２階大会議室

5. 内容

(1) 遺物展示

(2) 写真および解説パネル
納所遺跡出土竪櫛カラー写真パネル他、３０点

展示品	数量	出土遺跡	保管者
縄文土器	2	東庄内遺跡（鈴鹿市）	県教委
	1	金剛坂遺跡（明和町）	明和町
弥生土器	35	納所遺跡（津市）	県教委
	10	中ノ庄遺跡（三雲村）	〃

展示品	数量	出土遺跡	保管者
	5	亀井遺跡（津市）	県教委
	5	起A遺跡（鈴鹿市）	〃
	4	東庄内遺跡（鈴鹿市）	〃
	10	双ツ塚遺跡（鈴鹿市）	〃
	5	金剛坂遺跡（明和町）	明和町
	5	中楽山遺跡（伊勢市）	県教委
木製品	20	納所遺跡（津市）	〃
	5	北堀池遺跡（上野市）	〃
石製品	80	納所遺跡（津市）	〃
須恵器	10	茶臼山古墳（亀山市）	〃
土師器	5	カウジデン遺跡（多気町）	〃
緑釉陶器	3	大木ノ輪遺跡（鈴鹿市）	〃
灰釉陶器	3	川原井遺跡（鈴鹿市）	〃
蔵骨器	3	経塚中世墓（大安町）	〃
磁器	5	服部遺跡（松阪市）	〃
自然遺物		起A遺跡（鈴鹿市）	〃

2. 三重県発掘遺跡説明会

三重県教育委員会が実施してきた埋蔵文化財の発掘調査結果のうち、特に重要な成果が得られたものを選定し、スライドの映写等による説明会を開催した。なお、今回は、三重県埋蔵文化財展の開催地である熊野市有馬第2公民館で開催することによって、同展への理解を深めるとともに、文化財保護思想の普及をはかることとし、約80名の参加者があった。

○日　　時　昭和58年4月29日（金）14：00～16：00

○発表内容　1. 津市納所町　納所遺跡

2. 鈴鹿市安塚町　起A遺跡

3. 名張市赤目町　辻垣内遺跡

4. 多気郡明和町　斎宮跡

5. 安芸郡安濃町　大塚古墳（8mm記録映写）

3. 三重県埋蔵文化財調査展

三重県教育委員会が実施している埋蔵文化財の発掘調査について、遺跡の分布調査、現場における出土した遺物の状況から、報告書の作成までの手順を系統的に展示することにより、埋蔵文化財行政に対する保護思想の普及と高揚をはかった。入場者総数は約５００名であった。

（三重県埋蔵文化財調査展要項）

1. 三重県教育委員会が発掘調査を実施した遺跡から出土した各時代の遺物や報告書作成までの手順を公開・展示することにより、埋蔵文化財保護思想の普及と高揚をはかる。
2. 期　間　昭和５８年１１月１３日（金）～１１月２１日（日）
   ９：００～１７：００
   ただし、１９日（土）は１２：００まで
   ２０日（日）は９：００～１５：００
   ２１日（月）は１５：００まで
3. 会　場　三重県庁厚生棟２階展示室
   入場無料
4. 内　容　(1) 遺物展示
   (2) 写真および説明パネル３０点

展示品	出土遺跡	展示数量
縄文土器	金剛坂遺跡	1
	蛇亀橋遺跡	1
弥生土器	亀井遺跡	1
	納所遺跡	１０
須恵器	大塚古墳他	１０
磁器	服部遺跡他	4
埴輪	中ノ庄遺跡他	6
木製品	納所遺跡他	2
鉄製品	下郡遺跡	1

4. 三重県埋蔵文化財発掘調査報告会

各種開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査結果の公開については、これまで現地説明会を開催しているが、参加者が地域的に偏る傾向があることや、他地域の発掘調査についても知りたいとの要望が多い。そのため、県及び市町村教育委員会と各遺跡調査会における発掘調査結果のうち、特に重要な成果が得られたものを選定し、スライド映写等による報告会を開催した。なお、今回は、三重県埋蔵文化財展とは分離して上野市で開催し、同地域の埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、文化財保護思想の普及をはかることとし、約80名の参加者があった。

（三重県埋蔵文化財発掘調査報告会開催要項）

1. 目　的

昭和５７年度中に実施した県下の遺跡発掘調査件数は６０件に及ぶ。これらは、県教育委員会主体のものと市町村教育委員会及び各遺跡調査会主体のものに分けられ、調査途中ないしは、その終了後に現地説明会を開催し埋蔵文化財への理解と認識を広めている。

そこで、さらに埋蔵文化財の理解、保護思想の普及をはかるため、一般公開という趣旨のもと、各年度毎の発掘調査の中間的成果の公表を行ない、県民の文化的要求にこたえるものである。

2. 内　容

1）主催は、三重県教育委員会があたり、開催場所は各市町村の公共施設に置き、開催地市町村教育委員会の協賛のもとに行なう。

2）報告会は、一般公開とし3時間程度、前年度に発掘調査された遺跡のうちから１０件程度を取り上げ、原則として各遺跡調査担当者が調査結果をスライド等を併用して報告を行なう。

（１遺跡１５～２０分程度とする。）

3. 第２回報告会

〔日　時〕昭和５８年８月２０日（土）
１３：３０～１６：３０

〔場　所〕上野市・商工会館２階ホール

〔内　容〕1）あいさつ
2）昭和57年度の調査概況
3）各遺跡報告

報　告　遺　跡

（県）
1. 樋ノ谷遺跡
2. 辻垣内遺跡
3. 起Ａ遺跡
4. 前田遺跡
5. 斎宮跡
6. 歌野遺跡
7. 宮間口遺跡
8. 服部遺跡
9. 愛場遺跡
10. 下郡遺跡

（市町村）
1. 山田城跡（東員町）
2. 東出遺跡（久居市）
3. 草山遺跡（松阪市）
4. 発シＢ遺跡（明和町）
5. 鴻之巣遺跡（名張市）

5. 発掘遺跡現地説明会

発掘調査の途中あるいは終了時には、地域の人々に対し、文化財保護について理解を深めて頂くため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。三重の文化財と自然を守る会等の協力を得て、多数の方が参加された。

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加人数
宇野城跡	員弁郡員弁町大字宇野	町教育委員会	58. 8.14	50
丹生川上城跡	〃 大安町丹生川	県 〃	59. 1. 7	80
山田遺跡	〃 東員町大字山田	町 〃	58. 9. 4	50
白瀬城跡	〃 藤原町大字本郷	町 〃	59. 3. 9	80
六谷遺跡	三重郡菰野町大字小島	県 〃	59. 1.14	100
八幡山遺跡	四日市市小古曽町字五百山	市 〃	58. 9.15	120
長遺跡	津市長岡町字小山田	市 〃	58.10. 8	30
上野城跡	安芸郡河芸町大字上野	町 〃	58.10. 1	60
野呂氏館跡	〃 芸濃町 本殿町	町 〃	58. 9. 3	60
中野山古墳群	一志郡一志町八太	町 〃	58.12.10	80
草山遺跡	松阪市久保町字草山	市 〃	58. 8.28	250
斎宮跡（第48－1次）	多気郡明和町斎宮	県斎宮跡調査事務所	58. 6.19	116
〃（第49次）	〃	〃	58. 8.28	274
〃（第50次）	〃	〃	58.11. 3	279
〃（第51次）	〃	〃	59. 2. 5	300
中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町字中ノ垣内	県教育委員会	58. 8. 6 59. 1.21	50 40
天神遺跡	志摩郡阿児町国府	〃	58.11.19	40
御所垣内遺跡	名張市安部田字御所垣内	市遺跡調査会	58.12. 3	110
鴻之巣遺跡	〃 夏見字鴻之巣	〃	58. 7.31	60
壇・柏原遺跡	〃 赤目町字柏原	県教育委員会	58. 8. 7	50
北切A・B遺跡	阿山郡大山田村富永	県 〃	58.12.10	80
風呂谷城跡	〃	県 〃	58.10.29	60
久米山古墳群	上野市久米山	市 〃	59. 3.24	80

6. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等の貸出し、写真撮影・掲載等については一定の手続のもとに応じている。

◎ 保管遺物等の貸出し

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
伊賀町立霊峰中学校	社会科教材	伊賀町的場遺跡スライド20枚	58. 4.25 ～ 58. 5. 2	58. 4.25
愛知県陶磁資料館	渥美窯展	渥美蓮弁文壷1点	58. 6.28 ～ 58. 9. 5	58. 5.19
松阪市教委	草山遺跡展	草山遺跡パネル1枚	58.5.5.20 ～ 58.11.30	58. 5.20
三教組松阪支部	科学教育研究協議会展示	草山遺跡パネル1枚	58. 7.30 ～ 58. 8. 2	58. 7.30
尼崎市教委	弥生文化の波及」展	・納所遺跡出土 縄文土器片2点 弥生式土器13点 木製品7点 石器31点 ・起A遺跡出土 弥生式土器3点 ・金剛坂遺跡出土 弥生式土器1点 ・亀井遺跡出土 弥生式土器1点	58. 7.28 ～ 58. 9. 8	58. 7.12
県立上野高校	文化祭展示	・辻垣内遺跡スライド26枚 ・歌野遺跡スライド12枚	58. 9.13 ～ 58. 9.30	58. 9.12
鈴鹿市中学校社会科教育研究会	研究教材	埋文スライド一式	58. 9.24 ～ 58.10.15	58. 9.24
大宮町郷土資料館	樋の谷遺跡出土品展	樋の谷遺跡出土土器50点 石器19点	58.10. 1 ～ 59. 1.31 ～ 延期59.5.31	58. 9.27 59. 1.30
皇学館大学考古学研究会	大学祭展示	辻垣内遺跡出土 弥生式土器15点 スライド 2枚	58.10.29 ～ 58.11. 5	58.10.27
嬉野町教委	町文化祭展示	蛇亀橋遺跡出土縄文土器他40点 中郷小学校内復元住居写真パネル他9枚	58.11.11 ～ 58.11.15	58.11.10

付〔１〕　〔埋蔵文化財関係通知〕

昭和５８年１１月１５日
文化財保護部　記念物課

埋蔵文化財発掘調査国庫補助事業の執行に係る留意事項

1. 発掘調査報告書刊行について

(1) 事業計画の策定

イ　発掘調査報告書（概報等を含む。以下「報告書」という。）刊行が遅延している例がみられるが、事業計画を策定するに当っては十分検討の上、報告書刊行に要する期間を十分確保すること。

ロ　事業計画策定に当たり、当該事業年度内に報告書刊行ができない見込みの場合は、調査事業完了の翌年度に限り、報告書刊行事業を単年度事業として認めることがあるので、事前に当庁と十分協議すること。

(2) 事業計画の見直し

事業の進捗状況を常時把握し事業計画の見直しを行い、予定した報告書刊行が当該事業年度内に完了しない見込みとなった場合は、放置することなく計画変更又は翌年度への予算の繰越手続きを行う等適切な措置を執ること。報告書が未刊行となっているにもかかわらず、刊行したものとして支出することは、会計制度を無視した不適正な経理であるので絶対に行わないこと。

2. 発掘調査記録

発掘調査の成果物から、発掘調査した位置や範囲が特定できない例がみられる。

このことは、発掘調査の実績に疑問をもたれることともなるので、特に調査後の地形の変化を伴う記録保存調査については、現場写真を撮る等、この点に十分配慮すること。

3. 補助事業の経理について

国庫補助事業の経理は、交付条件によって地方公共団体の法令の定めに従い執行することとされている。

本事業においては、調査員報償費、発掘作業員賃金等が事業費の大部分を占めるが、この賃金等の経理について別途口座を設け裏経理を設ける等不適正な経理処理を行っていたとして、会計検査院の指摘を受けた例が発生している。今後、調査員、作業員等の委嘱、雇用関係について明確にするとともに、特に賃金等については適正な経理処理が行われるよう留意願いたい。

(1) 帳簿等について

イ　国庫補助事業はそれぞれ独立した事業であるので、各事業毎に収支を明らかにした帳簿を別々に備えること。

ロ　報償費、賃金等の経費の支払いについては、出納室から直接本人が受け取るか作業現場で支払う場合は、経費の資金前渡を受ける等、適正に行うこと。

(2) 報償費、賃金の経理について

イ　調査員、発掘人夫等について、その出役状況を確認する者を指定する等してその責任の所在を明確にするとともに、出役簿、作業日誌等を備え記録すること。

ロ　支給額の算定に当たっては、出役簿、作業日誌等により適確に把握すること。

ハ　出役者への支給は、本人への直接払いが原則である。金融機関が遠方である等特に支障がない限り、預貯金口座への振込みによることが望ましい。

ニ、出役者への支給は、出役者の都合等によって随時行うことなく、あらかじめ支給時期を定め、定期に行うこと。

(3)　委託調査について

イ　発掘調査事業は、事業の性質あるいは適正な経理処理を図る必要があること等から地方公共団体である補助事業者の直営事業とするのが原則であるが、専門的技術的に直営事業とすることが困難である場合は、事業執行の適切な能力を有する団体等への委託事業とすることができる。ただし、委託事業とする場合は、次のことに留意すること。

(イ)　委託する事業の範囲は、専門的、技術的に直営事業では実施できないものであって、例えば印刷契約のように事務的に処理し得る事務まで委託することは適当ではない。

(ロ)　委託先は、権利能力を有する団体（財団法人等）とすることが望ましい。

ただし、任意団体等によらざるを得ない場合は、事業遂行能力、経理執行能力等を十分検討すること。

ロ　委託契約を締結する場合の留意事項

委託による調査の場合においても、その経理は直営事業と同様に適正に行わなければならない。

したがって、委託契約を締結する場合特に次のことに留意すること。

(イ)　受託者による経理は、国又は地方公共団体が定めた財務規則等に準じた取扱いを行わせること。（前記3が準用されなければならない。）

(ロ)　受託者による経理は、受託者が行う他の事業と区分して執行されるようにしておくこと。

(ハ)　受託者は、前(ロ)の区分によって帳簿請求書、領収書、出役簿等一切の証拠書類の整理を行うこと。

(ニ)　委託者が必要と認めた場合随時報告を求め、あるいは立入調査等を行うことができるようにしておくこと。

(ホ)　委託調査の実施に伴って受託者が得た成果物、取得した権利、物品等について、委託者はその引渡しを受けるようにしておくこと。

(ヘ)　委託料は、受託者が事業に必要とした経費を支払うものであるから、事業完了後精算を行う必要があること。

付〔２〕　〔三重県文化財調査員設置要綱〕

（目　的）

第１条　三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物（以下「文化財」という。）の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員（以下「文化財調査員」という。」を設置する。

（任　務）

第２条　文化財調査員は、次に掲げる調査事項に従事する。

①　三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査

②　国、県営の各種土木建設事業における文化財の分布及び確認調査

③　埋蔵文化財発掘調査における調査協力

④　その他、文化財の保護に関し必要と認める調査

（定　数）

第３条　文化財調査員の定数は５０人以内とする。

（任　用）

第４条　文化財調査員は、地方公務員法第３条第３項第３号の規定により任用する。

2.　文化財調査員は、大学において考古学、歴史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的知識を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

3.　文化財調査員の任用期間は１年とし、再任することができる。

（勤務条件等）

第５条　文化財調査員の勤務条件、事務処理その他職務に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

（報酬の額）

第６条　文化財調査員の報酬の額は、特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和３６年条件第３号）第２条の別表の規定に基づき教育長が別に定める。

（費用弁償）

第７条　文化財調査員の費山弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和３２年年条例第４６号）に規定する行政職４等級の職務にある者に支給される旅費の額に相当する額とする。

（公務災害補償）

第８条　文化財調査員にかかる公務災害補償は議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例（昭和４２年条例第４３号）の定めるところによる。

（補　則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、文化財調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

附　則

1.　この要綱は、昭和５３年５月１日から施行する。

2.　三重県文化財調査員設置要綱（昭和５４年４月２７日教育長決裁）は、廃止する。

付〔３〕　〔昭和５８年度三重県文化財調査員一覧表〕

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
桑名・員弁・三重・四日市・鈴鹿・亀山	伊東春夫	自営		
	野田修久	長島中部小		
	片岡雅章	桑名高		
	森下明	大矢知興譲小		
	大場範久	石薬師高		
	保条馨	※大木中		
	石井剛	※八風中		
	安川富春	中部中		
	太田元二郎	成徳中		
	桐生定己	常盤中		
津・安芸・一志・久居	河合良成	南郊中		
	浅生悦生	西郊中		
	下井彰	東観中		
	本堂弘之	高宮小		
	津村善博	中郷小		
	宮崎洋史	北畠神社		
	小林和彦	安濃小		
松阪・多気・飯南・飯高	世古且守	松阪第二小		
	奥義次	宇治山田高		
	奥谷義一	※掃水小		
	福田昭	多気中		
	岡本好雄	山室山小		
	河合明	松阪工高		
	三井博之	粥見中		
	増田安生	明和中		
	中西健	小俣中		
	山崎富三郎	※早修小		
	村上喜雄	安楽島小		

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
伊勢・度会・鳥羽・志摩	御村精治	小俣中		
	川添昭博	浜島中		
	竹内正弘	鵜方小		
	中世古祥道	自営		
	伊藤保	自営		
	大西素行	外城田小		
	東浩成	志摩高		
上野・名張・阿山・名賀	森川桜男	自営		
	松山謙治	※鞆田小		
	岡本武和	柘植小		
	奥西勲	箕曲小		
	松鹿昭二	名張高		
	寺岡光三	会社員		
	仁保晋作	高尾小		
	福井健二	上野本町通郵便局		
	佐野明	日本サンショウウオセンター		
	竹内英雄	桔梗が丘中		
北牟婁尾鷲・	伊藤良	団体役員		
	湊章治	※長島高		
南牟婁熊野・	嶋正央	自営		
	田中安弘	遊木小		
	古部均	井田小		

（備　考）　文化財調査員数　５０名

北勢	１０名	上野	１０名
中勢	7	尾鷲	2
松阪	8	熊野	3
南勢志摩	１０		

勤務先欄※印は、教頭職

勤務地と本人の住所が異なる場合は、本人の居住地を（　）に示す。

付〔４〕　〔昭和５８年度三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣　旨

県下における指定文化財（国・県）及び埋蔵文化財包蔵地（以下文化財という。）を巡視し常時文化財の管理・保存状況を把握し、適切な処置を講じて、文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

(1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視

(2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導

(3) 巡視、保護管理指導についての結果報告

(4) 文化財保護思想についての普及活動

(5) その他文化財の保護保存に関すること。

3. 期　間

昭和58年５月１日～昭和59年３月31日

4. 事業の実施について

(1) 事業は、各教育事務所が執行するものとし、各教育事務所長は実施計画書(様式１)を２期にわけて、三重県教育委員会文化課長に提出する。

(2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会が任命した三重県文化財調査員が、前項実施計画書に基づき、実施する。

(3) 三重県文化財調査員は、文化財パトロール実施報告書（様式２）を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長はとりまとめて翌月１０日までに文化課長に提出する※なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

※（その写しを関係市町村教育委員会へも送付）

(4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応じて、文化課長及び関係市町村教育委員会に連絡する。

(5) 文化課長は、前項の状況により、早急に文化財パトロールカーを出動させ、文化財の保護対策を講じる。

(6) 事業の執行にかかる経費は、２期にわけて予算を合達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書（様式３）を文化課長に提出する。

（昭和59年４月２日までに）

(7) その他必要な事項は、そのつど文化課長が指示する。

〈様式１…… Ｂ５判〉

文化財パトロール
実施計画書

（昭和　年　月　日 ／ 昭和　年　月　日）

月　日	調査員名	パトロール地区	内　容	備　考

〈様式２…… Ｂ５判〉

文化財パトロール実施報告書

経　由	昭和　年　月　日　教育事務所　所長印
文化財パトロール地区 調査年月日 調査印	

	文化財の名称	所在地	調査事項
報告事項			※裏面に、問題箇所、見取図、写真等記入のこと。
備　考			

〈様式3 …… B5判〉

昭和　　年度　文化財パトロール事業実績報告

昭和　　年　　月　　日付け第　　号で事業施行の通知のあった文化財パトロールの実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月　　日	調　査　員	パトロール地区	備　　考

2. 支出証明書

項　　目	令　達　額	支　出　額	内　　訳
			※　旅費については、行き先、回数を明記すること。

付〔５〕　〔昭和５８年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目　　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得につとめようとする者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派遣し研修を受けさせるとともに、県内においても現地研修し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　　催

三重県教育委員会

3. 期　　間

昭和58年４月１日から昭和59年３月31日まで

県外研修　　３カ月

県内研修　　９カ月

4. 場　　所

県外　奈良市佐紀町奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター他

県内　緊急発掘調査現場

5. 人　　員

若干名

6. 参加資格

県内の小中高校の教職員のうちで、考古学歴史学に造けいが深く、発掘調査の経験を有する者

7. 研修内容

(1) 講　　義

総論　○文化財の保護

各論　○文化財保護法

○史跡、埋蔵文化財保護の現状

○発掘調査方法

調査計画、墳墓、集落、生産所窯、宮殿官衙寺院跡の調査

○遺物調査方法

実測原理、土器、土製品、石器木製品、瓦の観察と整理、人骨植物遺体の調査

○関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

○報告書作成方法

(2) 実習　○発掘技術実習、測量実習、遺跡実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習

8. 講　　師

奈良国立文化財研究所技官、県係員他

9. そ の 他

(1) 研修参加者の旅費は、県外県内とも県の規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し臨時教員が補充される。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

付〔6〕　埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表

〈法57条の2による届出〉（9件）

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	届出者	受付年月日
長遺跡他	津市長岡町字小山田504−1 他	宅地造成	512,000	三交不動産株式会社 取締役社長　服部泰造	58. 5. 10
中野山古墳群	一志町八太字中野山283−26他	倉口建設土取り	330,482	株式会社倉口建設 代表取締役　倉口　稔	58. 10. 27
大道遺跡	明和町大字池村字大道	土取り	3,000		58. 9. 5
藤原遺跡	〃　大字有爾中藤原	造成	4,900		58. 8. 11
明豆遺跡・狼谷遺跡・上地山古墳	度会郡玉城町宮古南広1696 他	ほ場整備	2,200	宮古土地改良区 理事長　村木　城士	58. 5. 10
久米山古墳群	上野市守田町字南平尾1120他	宅地造成	167,990	株式会社美濃屋靴鞄店 代表取締役　加藤　貢	58. 5. 2
大塞古墳	〃　上郡字大塞1339 他	大倉建設 団地造成	1,617,000	大倉建設株式会社 代表取締役　羊田一雄	58. 9. 27
御殿1〜4号墳	〃　東谷字御殿266 他	〃	63,600	〃	58. 11. 11
赤坂遺跡	名張市夏見字赤坂	水田整備	825		59. 2. 1

〈法57条の3による届出〉（28件）

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
宇野城跡	員弁町大字宇野字屋敷377 他	署舎建設	4,066	三重県知事	58. 7. 14
山田廃寺跡	東員町大字山田1600	体育館建設	3,400	東員町長	58. 7. 15
谷山古墳他	亀山市井田川〜大岡寺地内	国道一号線 バイパス	351,000	建設省中部地方建設局 名阪国道工事事務所長	58. 9. 12
上野城跡	河芸町大字上野字城屋敷2639	資料館等建設	200	河芸町長	58. 8. 12
孤塚古墳	孤野町大字大強原字孤塚2500他	工業用地造成	59,000	三重県土地開発公社 理事長	58. 9. 5
穴谷遺跡	〃　大字小島字下穴谷	県ホ	6,000	三重県知事職務代理者 三重県副知事	58. 11. 11
住持遺跡	河芸町大字三行字住持1098 他	県道	1,600	三重県知事	58. 9. 12
上出城跡	一志町田尻593−2	水道工事	63.6	一志町長	59. 3. 2
真見遺跡	白山町大字真見字行594 他	新農業構造改善 事業(ほ場整備)	28,000	白山町長	58. 7. 15
曲遺跡	松阪市曲り町絵図河原4−6 他	学校用地	34,649	松阪市長	58. 12. 13
数の下遺跡	松阪市岩内町字東世古384	農村基盤総合 整備パイロット	200	三重県知事	58. 12. 13
中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町字中之垣外158他	県ホ	7,500	〃	58. 5. 19
浜田浜遺跡	阿児町甲賀字前田4610 他	県道 里鹿谷線改良	1,600	〃	58. 12. 13
森寺遺跡	上野市森寺字前出229 他	団体営ほ場整備	678,446	上野市長	58. 8. 26
〃	〃	ホ場整備	301,000	上野市長	58. 8. 31
四国山城跡	〃　山出地内	国道368号線 改良	2,600	三重県知事	58. 11. 8
中友生遺跡	〃　下友生字大門1523 他	〃	1,200	〃	58. 5. 19
宮浦中世墓	〃　比自岐字西出683	河川災害関連工事	748	〃	59. 1. 10

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
壇遺跡	名張市赤目町柏原字北戸308他	河川災害関連工事	5,500	三重県知事	58. 5. 19
沢ノ代遺跡	〃 〃 丈六字福島458他	県道	4,771,915	〃	58. 7. 15
四ノ切城館跡	〃 東田原字水越	国道	6,000	〃	58. 12. 13
蔵持黒田古窯跡	〃 大字原出310他	一般国道368号線道路改良	176,000	〃	58. 12. 13
井手遺跡	〃 安部田字御所垣内4337	集団農区総合整備事業	27,000	名張市長	58. 9. 12
遊免遺跡	阿山町大字槇山字遊免2720他	〃	2,085,12	三重県知事	58. 6. 3
樋先城遺跡	〃 大字川合字東山11他	〃	3,000	〃	58. 6. 3
富永B遺跡他	大山田村富永字風呂谷942	県ホ	3,300	〃	58. 6. 9
永井氏城跡	〃 出後字中出山1669−2他	農道	5,000	〃	58. 7. 14
坂下遺跡	〃 坂下字向75他	道路改良	8,003,22	〃	58. 6. 3

〈法98条の2による通知〉(40件)

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
宇野城跡	員弁町大字宇野字屋敷377	署舎建設	1,000	教育長	58. 7. 14
丹生川上城跡	大安町丹生川上字正法寺1510−2	道路改良	6,250	〃	58. 9. 10
山田廃寺跡	東員町大字山田1600	体育館建設	3,400	〃	58. 7. 14
白瀬城跡	藤原町大字本郷字西中森1811−1	鉄塔工事	475	〃	58. 12. 13
八幡山遺跡	四日市々小古曽町字五百山	範囲確認	11,937	〃	58. 8. 10
孤塚古墳	菰野町大字大強原孤塚	工業用地造成	70,343	〃	58. 9. 12
下六反遺跡	〃 小島字下六谷	県ホ	6,000	〃	58. 10. 8
長遺跡他	津市長岡町字小山田504−1他	団地造成	512,000	〃	58. 5. 16
川北城跡 川北遺跡	〃 大里川北町字東谷・岡・中尾地内	住宅団地	20,000	〃	58. 12. 22
上野城	河芸町大字上野字城屋敷2639	資料館等	200	〃	58. 8. 12
新家南方遺跡	久居市新家町	工場用地造成	336,102.5	〃	58. 8. 10
中野山古墳群	一志町八太字中野山283−26	土取り	370	〃	58. 10. 26
上出城跡	一志町波瀬	水道工事	636	〃	58. 3. 2
真見遺跡	白山町大字真見字行ヒ94他	団体営(ホ場)	80	〃	58. 7. 14
草山遺跡	松阪市久保町字草山1150−3他	団地造成	7,500	〃	58. 4. 8
岩穴古墳	〃 西野町字岩穴312	防災	1	〃	58. 8. 10
曲遺跡	〃 曲り町字絵図河原4−8他	学校用地	124	〃	58. 12. 13
藤原遺跡	明和町大字有爾中藤原1551−1他	造成	72	〃	58. 8. 10
大道遺跡	〃 大字池村字大道509	土取り	99	〃	58. 9. 5

遺跡名	所在地	事業名	面積(㎡)	通知者	受付年月日
中ノ垣内遺跡	伊勢市佐八町字中之垣内158他	県ホ	7,500	教育長	58. 5. 19
明豆遺跡他	玉城町宮古北広1758他	団体営(ホ場)	1,540	〃	58. 5. 10
天神遺跡	阿児町国府字西海道2095	道路改良	1,800	〃	58. 8. 25
浜田浜遺跡	〃 甲賀字前田4610	〃	80	〃	59. 1. 19
久米山古墳群	上野市守田町字南平尾1120他	住宅団地	167,990	〃	58. 5. 2
中友生M遺跡	〃 下友生字大門1523他	県ホ	1,200	〃	58. 5. 20
中島遺跡	〃 西明寺2067−2他	ホテル建設	600	〃	58. 9. 5
大塞1号墳	〃 上郡字大塞1328他	住宅団地	200	〃	58. 9. 5
森寺遺跡	〃 森寺字前出229	〃	900	〃	58. 9. 12
下郡遺跡	〃 下郡字下代 他	河川改修	2,000	〃	58. 9. 25
御殿古墳	〃 東谷字御殿266	住宅団地	80	〃	58. 11. 11
森寺遺跡	〃 森寺字前出229	団体営ホ場整備	4,600	〃	59. 1. 10
安場氏館跡	〃 喰代字青木742 他	道路用地	40	〃	58. 8. 10
壇遺跡	名張市赤目町柏原字北戸308他	〃	5,500	〃	58. 5. 20
井手遺跡	〃 安部田字御所垣内4337	団体ホ場	2,000	〃	58. 9. 12
赤坂遺跡	〃 夏見字赤坂2378	水田整備	400	〃	59. 1. 31
富永B遺跡他	大山田村富永字風呂谷942他	〃	3,300	〃	58. 6. 9
坂下遺跡	〃 坂下字向75 他	地方道	1,000	〃	58. 6. 3
永井氏遺跡	〃 出後字中出山1668−1他	農道	500	〃	58. 7. 14
ハサマ遺跡	熊野市有馬町山崎	国道311号線	48	〃	58. 5. 20
志原尻遺跡	〃 〃 4761−2 他	〃	10	〃	58. 8. 10

付〔７〕　三重県埋蔵文化財認定通知物件　（昭和５８年１月１２月）

物件名	認定日	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	保管場所
扁平片刃斧 1点 土錘 1点	58.5.10	一志郡嬉野町大字下之庄	53.6			嬉野町社会福祉センター
須恵器壷 1点	58.8.8	松阪市西野町岩穴	58.7.10			
〃 杯身 2点						
〃 杯蓋 1点						
〃 甑 1点						
須恵器提瓶 1点	58.8.16	志摩郡阿児町志島古名古	58.6.27			
〃 杯身 2点						
〃 高杯 1点						
〃 甑 1点						
土師器椀 1点						

三重県教育委員会

文化課	津市広明町13 三重県庁内7階 TEL 0592-24-2986~2988
埋蔵文化財整理所 （通称文化課分室）	津市桜橋2丁目 TEL 0592-27-2465
斎宮跡調査事務所	多気郡明和町斎宮 TEL 05965-2-1732
埋蔵文化財上野整理所	上野市丸の内117 TEL 0595-24-0079